

論 説

フランス人民戦線の地方史的研究 (二・完)

——一九三四—三九年ピレネー・ゾリアンタール県における共産党の歴史——

平 田 好 成

「権威主義、秘密主義、個人崇拜、これらはかつて党の特徴であったが、一掃されている。しかし、この分野でなお党内には歪みが残っている。」

フランス共産党第二七回大会決議、一九九〇年二月二日採決。

三

共産党の定着の二重の局面 (一九三六年秋—一九三八年秋)

選挙の定着、組織の発展

選挙の継続性 ピレネー・ゾリアンタール県 (約二三・四万) において、一九三七年と一九三八年に起こった、補欠市町村議会議員、上院議員及び国民議会議員あるいは県会議員選挙は、一九三六年に共産党によって手に入れられた結果を確認した。共和的スペインを考慮して共産党の地方のはっきりした態度の決定、人民戦線綱領の実現のために続けられた地

方の行動は、フランス社会党の県の決定機関が、人気がない政府の措置に与えた、支持とともに対照をなした。すなわち、不干渉、経済的及び社会的休止。ペルピニヤンの市会の中に対立が暴露した、社会党の分裂は、単に共産党員たちに対して利用することができた。急進党員たちの一部が、カタルニヤの左翼を放棄するように思われたのに、新しい勢力関係は、一九三七年六月から一九三八年五月まで相次いだ、色々な選挙が、数量化された表現を与えた、関係の内部にほの見た。

—ペルピニヤンの成功 一九三七年六月二〇日、人々は、ペルピニヤンで、二人の市会議員を選ぶのに投票した。五月末で、J[＝]ペイラの死は、補欠選挙の組織を必要にした。共産党は、M[＝]アティエル Michel Athiel と F[＝]ジュリ Fernand Gelv[＝]、という立候補者たちとして、立候補するように決定した。二人の人間たち（三〇歳）は、ペルピニヤンの民衆階層の代表的であった。地方的指導部によって援助された、彼らは、あらゆる都市の街区（地区）を訪問し、ジョブ工場の文房具店のため及び商業サラリーマンたちと小商人たちのため特別の集会を組織し、非常に行動的なキャンペーンを繰り広げた。当時の共産党政策の大きなテーマを發展して、彼らは、テーマを都市の諸問題に適合することができた。そして、選挙の政治的側を無視しないで、彼らは、ためらわずテーマの綱領の地方的部分を強調した。人々は、ペルピニヤンで一九三五年の市町村議会議員選挙を、特徴づけた、ほとんど象徴的参加をするどころではなかった。社会党支部によって立候補された二人の立候補者たちは、M[＝]カロラによって連れて行かれた市会の分派の名に対して、その支部であった。市会社会党員たちの分裂は、この投票の機会で、重要な日で広がった。左翼に対して選択の幅は、二人の急進党の立候補者たちによって補充された。人民戦線の敵たちに関して、敵たちは、フランス人民党の活動家とフランス社会党の活動家とともに、いわゆる反マルクス主義の、共同名簿を構成した。彼らの、本質的に政治的綱領は、道を『赤いファシズム』に妨害すること、というスローガンに要約された。ブルム政府が、上院に対して倒れた日さえ、第一回投票の夕方、ペルピニヤンの共産党員たちは、お祝いをした。もし彼らの立候補者たちが、単に反マルクス主義の名簿の立候補者たちの後

るに第二の立場に到着したならば、彼らは、五〇〇以上の票の急進党員たちと七〇〇以上の票の社会党員たちを追い抜いて、左翼の立候補者たちの先頭にいた。一九三五年の選挙と比べて、社会党員たちと共産党員たちのそれぞれの状況は、逆にされた。民衆的ベルピニヤンは、大量に共産党に投票した。疑いもなく、大きく敗北された、社会党は、彼の内部の諸対立のため従って害を蒙った。しかし、人々は、諸対立の中に、共産党の成功の単独の理由を見えることはできないであろう。共産党によってベルピニヤンの左翼の内部に、最初の場所の征服は、テラロックグループが押し付けることはできた、統一された党のマークの新しいイメージの、中産階層に対して地方によって表明された新しい利害の、そして続けて起こった、共産党の諸組織の発展の結果であった。第二回投票を先行した一週間後に、社会党の立候補者たちは、共産党の立候補者たちのために立候補を取り下げたし、急進党員たちは、ためらった後、引退した。六月二十七日、二人の共産党の立候補者たちは、七〇〇票の進歩で彼らの敵たちに容易に勝った。もしいかなる社会党の投票が、人民戦線の立候補者たちに欠けていなかったならば、急進党の投票は、同じではなかった。分裂された急進党と分割された社会党に直面して、共産党は、今後、ベルピニヤンの政治的風景において安定の要素として現れた。都市の全体について、共産党の立候補者たちが、登録者たちに比べて算定された投票の五三、三%を集めたのに、民衆的諸街区の投票は、この点についていかなる疑いを残さなかった。ベルピニヤンで、共産党は、共和的遺産を受けた。

—大きな選挙人たちの安定 一九三七年の選挙の母体は、一九三五年に同じ母体であったし、一九三七年七月二十五日の補欠上院議員選挙は、予期せぬ出来事ではなかった。共産党の立候補者、A. ジャンドルは、彼の名について二〇票を集めた。事実上、彼は、共産党の票を最大限に集めた。しかし、左翼の別の諸党の選挙民の上に重ならなかった。共産党員たちにとって公に彼らの立場を想起させるように機会、すなわち、この上院議員選挙の主な結果は、補欠国民議会議員選挙を引き起こすことであった。

—県会議員選挙への進歩 しかし、この補充選挙の決着の付く日の前、共産党に対して、県の全体において共産党の影

響力を測るようになつた、一九三七年一月一日と二七日、一般的な県會議員選挙は、場所を占めるはずであつた。共産党が、ピレネー・ゾリアンタール県において実在した以降、決して選挙は、いかなる心配で準備されなかつた。六月一三日、地方的委員会は、初めて、準備するのに各議席のために立候補者を立候補するように要求して、小郡によつて選挙委員会の創立を決定した。六月と七月の間に、そのメンバーたちは、この指令が、死文によつて残らないであろう、確認するため、そしてキャンペーンを始めるため、一三の農村の小郡を訪問した。七月二七日、二か月半の選挙の前、カルタニヤの労働者紙は、県会への及び郡会への共産党の立候補者たちの名簿を公表した。地方局と地方的委員会は、二四人の立候補者たちについて代表された。一五人は、実際、共産党の地方的指導部の機関に所属した。地方的書記は、名簿に載つていた。共産党の立候補者たちの失敗あるいは成功は、これらの県會議員選挙の時、従つて党の指導部の失敗あるいは成功であるであろう。キャンペーンは、ファシズムに反対する及び人民戦線綱領の適用のため闘争のテーマの周りに、組織された。誰もこの例外的努力に軽蔑し合わなかつたように、L「ロック」は、県会によつて演じられた役割の重要性を強調した。共産党の立候補者たちは、もはやはっきりしなかつた、しかし、はっきり選挙を狙つた。第一回投票の直後、共産党員たちは、全フランスにおけると同様にピレネー・ゾリアンタール県における、満足させるように諸理由であつた。共産党の立候補者たちの全体は、県において、九、四六一票を手に入れた。彼らは、一九三四年に手に入れた投票の数を二倍にしたし、一九三六年の国民議會議員選挙に比べて、単に三二五票を失つた。投票の小郡の分配の検討は、はっきりした不均衡を明らかにさせる。小郡の第一のグループにおいて、共産党は、絶対的な同様に相対的な価値で、後退を責めた。リヴザルト等の小郡において、党の県のレヴェルで共産党の重さを連れ戻した、低迷の長い過程の結果は、問題となつた。シエレ等の国境の小郡において、任期切れで止める立候補者たちの固い地方的定着は、一時的に共産党の影響力を後退させた。第二のグループは、共産党の投票が、敏感な進行中であつた、別の一四の小郡を構成された。これらの小郡の八つにおいて、共産党の票の相対的なこの前進は、絶対的価値で増大を伴つた。疑いもなく、この投

票の殺到において、地方によって一九三六年に沿って及び一九三七年初めになされた再組織の努力の結果を見る必要がある。一九三四年の非常に大きい地区は、小郡の基礎について再び輪郭を浮き上らせた。新しい生活は、続いて起こった。一九二〇年以来、共産党の組織で決して持たなかった、セルダニューのような地方は、一九三七年初めに支部となった、細胞と地区を所有した。しかし、もし一九三六年に共産党によって手に入れられた結果が、確認されたならば、もし共産党の投票の県の分配が、もっと均衡されたやり方で作られたならば、共産党と社会党の間に諸勢力関係は、ごく僅かに進展した。小郡の多数派において、二つの党の結果の間に隔たりは、安定のままであった。第二回投票で、いずれにせよ、東ベルピニヤンの及びミラスの二つの小郡において、単に共産党の立候補者は、事実であった。Lロックは、前者において、市会議員の議席を得ようとして懸命になったし、Dマルレ Paul Malet は、後者において、郡会議員の議席を得ようとして懸命になった。二つの小郡に直面して、社会党の立候補者たちは、従って人民戦線協定に対して立候補を取り下げたし、二人の急進党の立候補者たちは、右翼によって支持された。社会党の票の移動は、完全であった。ロックは、第二回投票で、第一回投票の共産党の及び社会党の票の全体より一四七票だけ多く作った。しかし、第一回投票の棄権者たちの殺到は、共産党の立候補者たちに対して致命的であった。県会の及び郡会の多数派は、社会党のままであった。共産党の地方は、同時に、『ファシズムの破壊』とフランス共産党の急速な進歩の確認を見た。

—セレの補欠国民議会議員選挙、確認された進歩 地方は、一九三八年四月三日と一〇日、展開されるはずであった、この選挙のために非常に早くキャンペーンを開始した。一九三七年八月二九日、地方的情報協議会の時、Pテラの立候補は、厳かに通知された。一九三八年一月初めで、選挙区の選挙委員会は、Lロック、FマルティとAジャンドルの権威の下に、四月三日の投票によって関係のある六つの小郡に照応する六つの支部の行動を調整するため、配置させた。流れが、地方的書記の立候補の周りに引き起こした、民衆の流れを構造化するような意図において、選挙委員会は、加入証明書を刊行した。しかし、委員会の重大な事業は、小冊子の着想であった。その入念な性格と広告の資格は、共産党の

選挙の諸資料の普通の水準に一刀両断に決める。その事業は、理解されなかつたフランス共産党の全国的綱領と対照をなす、風通しのよい活版印刷で、八頁を含んだ。二つの表紙のページは、『パンの、自由の及び平和の』立候補者を賛成するのに、二つのアピールとして現れる。第一のアピールは、同時に小冊子の内容を知らせた。最後のアピールは、『自由な、強い及び幸せな、フランスにおいて、隆盛なカタルニャのため』という、スローガンに内容を要約した。Pitteraの素晴らしい写真で飾られた第二のページは、共産党の代議士たちの議会の事業を想起したし、選挙の中心問題を固定した。別の内部の五頁は、Pitteraの綱領を呈示した。その報告は、簡潔であつた。選挙区の住民の不安に対する適用された報告。無声映画の字幕によって要約された、報告は、選挙区において取られた、五つの写真によって例証された。この選挙を準備するのに地方によって置かれた心配は、選挙の重要性の力量を発揮する。左翼が多数派であつた、県において、一九三八年に大規模な最初の相談、すなわち、シエレの国民議會議員選挙は、共産党に対して、真の全国的テストを構成した。得票の勝利が構成したであろう、成功は、左翼の民衆が、人民戦線を推進するため、共産党員たちの努力を持続させたことを指摘したのである。その引き合いに出すのにテラの綱領の固執を横切つて、それは、懇願された、社会党の及び共産党の見解の間に民衆的調停である。フランス共産党の全国的指導部は、キャンペーンに参加するため動員された。三月二〇日から二七日まで、一二名の代議士たち（農民代議士Wロシエ、政治局メンバーJデュクロ等）は、地方に勝手に使わせるようになったし、共産党が、最も大きな村落において公の集会を活気づけて、一九三六年及び一九三七年の党の得票結果を改善できる状態にあると考えた、テュイルTuileries及びミラスの小郡を歩き回つた。この例外的努力は、努力の成果をもたらした。四月三日の夕方で、Pitteraは、確かに第三番目の立場に到着したし、はっきりと一九三六年の彼の結果を改善した。彼は、三、六五四票で、四一五票を獲得したし、有効者の二一、三七%から二三、九四%まで共産党の得票結果を移動させた。彼は、その上、隔たりを一四、四一ポイントから一三、七三ポイントまで移動させて、共産党と社会党の間に隔たりを減ずるのに到達した。この選挙の主な教訓は、疑いもなく、テュイルとミラル等の小郡において、

共産党の続く進行であった。そのように、一九三八年春で、共産党は、党の影響力をピレネーヅリアンタール県において増大し続けるように見えた。結果として起こった、補欠投票は、この傾向を弱くしなかった。もし一九三八年七月三日、シエレの小郡において郡会議員選挙が、ある後退によって共産党のために結集したならば、五月に、六月に、市会議員のような選挙は、カタルニャの左翼の選挙民のため、フランス共産党の深い運動体が、是非とも怪しげなものではなかったことを、指摘した。ピレネーヅリアンタール県において、共産党の政治的重さの増大は、しかし党の行動の、党の演説の単なる結果ではなかったし、党の周りに取り巻いた、党の定員数の、党の組織の及び大衆的運動の発展で、調子を合わせて進んだ。

組織によって試練 — 続く増加 一九三六年の大スト及びスペイン戦争の初めを続けて起こった、数か月は、ピレネーヅリアンタール県において、年の始まり以来観察された、共産党の定員数の急速な増加に対する傾向を確認させるようになった。辛うじて、ピテラは、六月末で、地方の加入者たちの数が、八月二三日、地方的委員会が、一九三七年一月以前、二、五〇〇で数を移動させるように目標として割り当てられた、約一、〇〇〇を追い抜いたことを、通知するばかりであった。一九三七年一月三日、第三回地方的協議会は、一九三六年夏と秋は、冬と春の約束を守ったことを、承認した。フランス共産党は、今後、九八の細胞に分配された二、〇〇〇以上の加入者たちをピレネーヅリアンタール県において数えた。一年で、カタルニャの共産党員たちの数は、少なくとも一、四八〇の構成単位の絶対的価値で増加した。すなわち、二八四%の相対的進行。全国的レヴェルにおいて、二二〇%という記録された進行で感動的に優れた、進行は、一九三六年に沿って、加入のリズムの最も大きな規律性に責を帰すべきように見える。この増加の続くリズムは、第三回地方的協議会を、一九三八年の展望のため、『三、〇〇〇人のために先頭に』という楽観主義的スローガンを発させた！一九三七年二月五日、第四回地方的協議会の名において、リズムを取り戻しながら、共産党の地方の指導者たちは、はつきりと、従って狙われた目標が、到達されていないことを、承認した。しかし、一九三七年二月にピレネー

ゾリアンタール県における、アルル大会に与えられた数字、二、四〇〇の加入者たちで、共産党は、一九三五年末で到着されたレヴェルより優れたほとんど五倍のレヴェルで、党の定員数を安定したし、社会党の定員数に接近させた（社会党は、一九三六年末で、ピレネーゾリアンタール県において三、〇〇〇の加入者たちを数えた）。ずれは、遅くなった全国的進行（一九三六年一月から一九三七年二月まで、十二七三%）とエロー県のためJ=サニエ Jean Sagnes によって確認された進行にかなり似た、支持された県の進行（同じ時期のために十三六一%）の間にはつきりした。数字で示した参考資料の欠如で、一九三八年にピレネーゾリアンタール県において共産党の定員数の動きの評価を与えることは、困難である。しかしながら、警察の報告が、一九三八年一月三〇日のストまで、共産党の加入者たちの数のいかなる減少を指示しないで、人々は、定員数が、とにかく、些細な増加によってマークされた全国的傾向に従ったことを評価することはできる。

—新しい組織の諸構造のためよりよく分配された定員数。ピレネーゾリアンタール県における共産党の定員数のこの注目すべき増加は、党の定員数のよりよい地理的配分に伴った、一九三六年五月に始まった動きは、エスタジェル Estajel 地区の創設で、発展した。一九三六年九月に、ブラド地区は、二つの新しい地区を生んだ。エルヌ地区は、コートヴエルメイユ Côte-Vermelle 地区を生んだ。一九三七年四月に、シエル支部（一九三七年一月二日と二日、モンリュエ全国的協議会は、今後、地方と細胞の間に中間の尺度が、支持の名を取ったであろうことを、決定した。）は、アルル=シユル=テク Arles-sur-Tech 支部を作り上げるため、アルル=シユル=テクとプラド=ドゥ=モロ Prats-de-Mollo 小郡をそれぞれから離れるように見えた。一九三七年一月一月に、二つの新しい支部は、リヴザルト支部から創られた、サン=ローラン=ドゥ=サランク St-Laurent-de-la-Salanque 支部及びミラス支部から創られた、テュイル支部を誕生した。最後に、現下の一九三八年、ベルビニャン支部は、エルヌ支部を吸収した。結局、五つの初期の地区（ベルビニャン、リヴザルト、シエレ、ブラド、ミラス）に対して、県の行政的対立を突き合わせるように努力した、一三の支部は、後を継いだ、加入者たちの

数が、数を可能にした毎に、地方的指導者たちは、支部と小郡を同時に起こさせるように努力した。フランス共産党のカタルニャ地方のこの再編成化の選挙の動機は、明らかである。投票の道を再発見して、共産党員たちは、もはやそこから離れなかつたために、投票を可能にすることを要求した。一部分は、行政的区割りにそっくり似せられた組織は、単に投票を任務を容易にすることはできた。もし人々が、時折、充分な幹部なしで、支部を準備するような危険を取つたならば、人々は、しかしながら、充分な戦闘的基礎なしで、新しい支部を創設することはできなかった。定員数に関して気紛れなとはいえ、警察の部局によつて県知事に提供された総合は、しかしながら、地理的レヴェルについてかなり釣合の取れた募集を証明する。

—ベルピニヤンの重さ 当時本質的に都市の、ベルピニヤン支部によつて獲得された新しい重さ(一九三七年一二月に六〇〇の加入者たち、すなわち、地方の加入者たちの二五%)は、七〇、〇〇〇の住民たちで、一九三六年に、県の人口の定着の、都市と農村の間に、均衡の回復の特徴であつた。疑いもなく、ミラス支部によつて地方の指導機関の内に行使された影響力(二人の中に地方局の四人のメンバーたちは、その支部に所属した。)は、無視できなかつた。しかし、影響力は、一九二〇年代においてリヴザルト地区に反対して、自分がベルピニヤンの共産党の組織と競争すると主張することはできなかつた。支部の加入者たちの重さと同様に、当時ベルピニヤン支部の威厳を作る問題は、支部の一二の街区細胞と及び支部の五から一〇まで農村細胞と、一一から一七まで企業細胞と比べれば、実在である。一九二四年から一九三六年まで、ピレネー・リヴザル県において、常に念願された、しかし稀に配置された組織の形態、すなわち、諸細胞は、人民戦線の及び地方的指導部で片意地にさせた意思の加入の波から生まれる。色々な実践の場所、—休止の時間で、集会が、仕事場について作られる、建物の細胞と彼らの約一〇人の加入者たちで、鉄道労働者たちの細胞の間、状況は、いささか違つている—、すなわち、企業細胞は、その伝統が、続ける、しかし永続させないことを要求する、社会党

の伝統に直面して、共産党の独創性の確認である。しかしながら、もし人々が、これらの企業細胞の象徴的局面を放つたらかしにして置くならば、ベルピニャンで共産党員たちの活動の主要な部分は、都市の日常生活によって提起された多様な問題に干渉する、そして党によって発せられた多様なキャンペーンを責任を引き受ける、街区細胞の事実であることを確認しなければならない。カフェにおいてその細胞の常時窓口を持つて、街区細胞は、当時ベルピニャンの民衆的社交性の構成要素の一つである。都市の全体について共産党員たちの活動を調整するような必要は、ベルピニャン支部から、ピレネーゾリアンタール県において共産党の組織の単なる規模を作らないし、共産党の組織の本質的歯車の一つを作る。一九三六年に、次いで一九三七年から一九三九年まで、ベルピニャン支部は、約二〇人のメンバーたちの委員会でも最も尾一貫した組織を所有する、ピレネーゾリアンタール県支部である。その支部は、一九三七年一月にそして五月に、党の学校を組織して、当時活動家たちの教育に心配するのを、単なる支部であるように見える。平行して、その支部は、宣伝の領域において重要な努力を完全に実現する。その支部は、ベルピニャンで及び隣りにいて、共産党の出版物を考慮して行動を引き受ける。一九三七年三月から一二月まで、その支部は、ベルピニャンで一種の共産党の映画愛好会を組織する。この力学は、疑いもなく、一方では、地方的指導部で地域的指導部の密接な絡み合いの結果である。実際、地方の定員数の二五%の全体的な数の影響力のため、ベルピニャン支部は、一二名について八名の地方局のメンバーたち及び三〇名について一五名の地方的委員会のメンバーたちで、一九三七年と一九三八年に地方の指導者たちの五〇%を供給する。地方的レヴェルで取られた議決の適用で恵まれた場、すなわち、その支部は、ある意味でモデル支部である。しかしながら、多様な支部の活動の余りにも大きい不均衡を、この状況から結論する必要がなかったであろう。農村支部、そしてそれに依存する、細胞は、スペインの共和派たちに対して援助の運動に参加するため、選挙の相談の時、共産党の立候補者たちのキャンペーンを組織するため、ストを支持するためあるいはなお新しい加入者たちを募集するため、しばしば数えることはなしに、尽力する。ベルピニャン支部とミラス支部が、本拠を分けられる、地方局に対して農村支部の大

部分の非代表団、すなわち、地方的委員会に対して農村支部の弱い代表団は、地方の内に都市と農村という関係の発展に単に執着していない、しかし厳格に地理的なレヴェルの要素に執着している。個人的な輸送の手段が、なおしばしば財産の特権である時期に、県の西部の多少とも山岳の小郡のベルビニヤンの隔たりは、ルシヨンの首都の三〇キロ以上から離れた、支部の代表たちの定期的な参加を当てることはできないよう、少しも認めない。都市の及び農村の代表団の間に均衡を見出すようにこれらの困難のこの先に、初めて一九二〇年代以来、共産党が、ピレネー・ゾリアンタール県において、真の組織を所有していた、事実は、留まる。

—首尾一貫した指導部 一九三四年にあちこちからかき集めて構成された、連盟の指導部に対して、疑いもなく一九三五年末から、そして確かに一九三六年六月から、重要な手直しなしで、一九三九年まで、ピレネー・ゾリアンタール県において共産党の先頭に留まるようになった、相対的に同質の連盟の指導部は、代わりにになった。建築の最も重要な作品、地方局は、全国的指導部によって指名された地方的書記、Pテラの周りに、共産党の責任者たちの二つの世代を再編成した。階級対階級戦術が、党の金科玉条であった、困難な年月の間形成された、第一世代に対して、Pテラを加えて、Lロック、Jボールス、Fマルテイ、Aジャンドル及びPマレは、所属した。人民戦線の形成に帰着するはずであった、諸事件から生まれた、第二世代に対して、地方局に対して共産主義青年同盟の色々な代表者たちが、Aトールネ Andre Tourne 等と同様に、Fジュリ等は、所属した。フランス共産党の歴史の二つの機会を表す、これらの二つのグループは、満足したやり方で、指導グループに合体したように見える。その理由は、これらのグループは、ある例外を除けば、それぞれ一九三七年一月三日、一九三七年二月五日及び一九三八年二月一〇日と一一日に開催された、第三回、第四回及び第五回地方的協議会の時、共産党の先頭に継続延長された。同時に、構成の形態と似た継続性は、地方局のあらゆるメンバーたちが、所属する、地方的委員会を特徴づける。篤志行為に基礎を置く、首尾一貫した。共産党の地方的指導部は、一九三八年六月、Lロックが、有給の専従職員になる、正確な任務における、彼のメンバーたちのある

人々を専門化させながら、彼の成果を増加するように試みるため、期待する必要がある。書記長Pitteraの側に、二人の代表として派遣された書記、宣伝に対する書記Lロック、組織に対する書記Fマルティは、党の発展のため鍵たる二つの領域を手引き受ける。書記たちを助けるため、諸委員会は、地方的委員会によって党の内部に選ばれる。事件に反応するように政党の色々な組織の能力は、活動家たちの間に接触のリズムに依存する。地方的委員会は、一か月毎に約一回開催されたのに、地方局は、例外的規則性で、毎週開催されたように見える。われわれは、月一回あるいは月二回であつたように見える、支部と細胞の諸委員会の集会のリズムについて情報を与えられない。地方的諸協議会の流れにますます複雑になつた、この組織は、単独の目的のため、組織の固有の永続を明白にしなかつたし、先ず第一に政策の道具であつた。もしわれわれが、前もつてその大きなテーマを取り組むような機会を持つたならば、われわれを、カタルニヤの住民の側に伝言を移動させながら、県内に構造化された、共産党を、どの手段によつてまだ証明しなければならぬ。

演説の支え その間に、地方的あるいは全国的責任者、党の演説者が、共産党の立場と提案を述べるようにする、公の集会は、重要性から譲る。一九三六年―一九三九年の時期において、選挙のキャンペーンの恵まれた瞬間、公の集会は、普通の時期で滅多に姿を見せない。もし人々が、これら二日間、県の主な集合体において一八の集会を開催した、九人の共産党代議士たちの一九三七年三月六日と七日の宣伝の巡業を除外するならば、共産党員たちは、統一された気掛りによつて、彼らの主導権で、人民戦線の名で組織された、単に公の集会に参加するように努力した。しかしながら、共産党にとつて、隔たりにおいて、選挙のキャンペーンを、共産党が、影響を及ぼすように要求した、諸階層で直接の接触を自分で断つことは、問題であることはできなかった。映画のようにマスメディアによる支えの利用、そして祝祭の定期的組織は、公の集会の減少の不都合を蔽ひ隠した。

―祝祭 七月末―八月初め、今後年に組織された、地方的祝祭は、一九三六年、一九三七年と一九三八年の三年にとつて六、〇〇〇の人々に評価された、重要な群衆を引き付ける。祝祭の成功は、幾つかの支部を、それらの順番で、民衆の

及び田舎の祝祭を準備するのに仕向ける。最も定期的祝祭は、夏に展開される。これに反して、諸支部は、冬の厳しさあるいは春のわか雨を敢然と立ち向かうように恐れない。デモのように、一九三六年末から一九三八年末まで、統一された枠の外に稀な、党の生活の強い時期、すなわち、祝祭は、先ず第一に、共産党員たちと彼らの家族を集める、しかし、デモの綱領は、多数のシンパを引き付ける。祝祭は、従って同時に、非共産党員たちと共産党員たちの間に出合いの恵まれた場所、及び党の生活の時期である。ほんの少し懐柔された性質の舞台装置において、赤旗と三色旗の動揺は、視線を接触する。午後で、人々は、蔓の火を点火する。間もなく、燠について、かたつむりとソーセージは、程よく火の通ったものである。午後、祝祭は、最高潮になる。カタルニヤの歌とダンスは、ゾヴィエトの合唱団とダンスに及び流行するフランスのメロディーに答える。喜劇的な幕間劇、郷土的な出し物は、もはやダンスをしない。人々を気晴らしをさせる、そして最も青少年に対して、彼らの息を取り戻すように許すようになる。子供たちは、感動した視線の下で、老人たちを利用する。微笑は、喚き起こる。一瞬、生活は、前もって数分、歴史について引き離れたように見える。後で、指導者たちの声は、共通の考え方を表現するであろう。活動家は、粘り強い努力を取り戻す用意のできた。好奇心の強い人、シンパは、単純な友愛の熱意を通すように感じた。祭式の一部は、シンパを多分逃れた。しかし、シンパは、ある幸福の形態を接近した。祝祭は、その衝撃からその稀少まで、権力を負っている。公の集会に結び付けられた、祝祭は、北カタルニヤの共産党に対して、大衆とともに、しかし偶然の特徴の下に、直接の接触を保証した。党の態度の決定のように党のイデオロギーを善及するため、党は、ピレネーゾリアンタール県において、別の風に柔軟な手段を必要とした。それは、カタルニヤの労働者紙であった。

—カタルニヤの労働者紙 一九三六年七月末で生まれた、カタルニヤの労働者紙は、急速に、県の出版物の堅い機関紙のように是非必要であるはずであった。四頁について大判を印刷された、カタルニヤの労働者紙は、彼らの県の結果と様式と同様に内部と外部の本質的な状況を取り扱った、彼の最大ユルの事件を社説に捧げた。社説を含めて、これらの論説の最

も頻繁な三つの署名は、地方的書記、P₁テラ、L₁ロックとF₁マルティの署名であった。彼らは、従つて共同の方向で理想的イメージを与えられて、あらゆる領域で交互に取り扱つた。L₁プーラ Leon Bourlat のそして社会主義者の祖国の防衛で責任を負わせた、P₁コンボアのペンに帰すべき論説は、もつと間を置かれた。もつと断続的に、F₁ジュリ、A₁ジャンドル等は、G₁ペリのあるいはA₁マルティの署名のように高名な署名を歓迎した、共産党の地方的週刊紙の本の扉に対して彼らの貢献をもたらした。内部の頁は、三つの立法する選挙区に照応する、三つの欄（ベルピニャン、シェレ、プラード）に分れた、何時も、完全に地方的報道に捧げられた。リズムから、そして変わり易い利害から、支部と細胞の報道は、色々な党の組織の間に比類のない連絡の道具であつた。要するに、第四頁は、共産主義青年同盟は対して、労働組合と別の大衆的組織に対して、共産党のために前の三頁と同じ有用性と同じ衝撃を持つた、問題を留保された。一九三七年初めから、カタルニヤの労働者紙は、もつと長期で不安に向かつて心中を打ち空けるため、直接に政治的及び実用のための彼の機能を越えるように試みた。ピレネーヅリアンタール県の観光の及び工業の可能性に捧げられた、幾つかの論説は、彼らの資源の組織的研究の上に建てられた、ピレネーヅリアンタール県の経済的發展の政策の大きな路線を描いた。読者たちの反省に従わせられた一件書類、すなわち、透かして革命的よりもつと管理に関する共産党のイメージを描いた、これらの論説は、直接の結果を持たなかつた。平行して、P₁コンボアは、大衆によつて含まれて、ブルジョワジーによつて拒絶された、特に民衆的創始者たちの孤立を嘆いて、彼の読者たちを文化的不安に呼び起こすように努力した。共産党の組織の色々なレヴェルの間に連絡を保証して、そして党の近い諸組織の活動の中継、彼らの地理的隔たりを蔽い隠して、ピレネーヅリアンタール県における共産党のスポークスマン、しかし同様に社会的使命で情報の週刊紙、すなわち、カタルニヤの労働者紙は、一九三六年末から、彼の影響力を共産党の加入者たちのサークルを広く越えるのも見えた。一、〇〇〇以上の予約購読者たちのおびただしい、例外的売上の時八、〇〇〇と一〇、〇〇〇で到達して、平均して五、〇〇〇部の周りに印刷されて、カタルニヤの労働者紙は、間もなく最小限の財政的均衡で保証された。その

労働者紙は、県における共産党の再生の象徴として、彼の将来で確信していた。

戦闘的な横顔 人々は、どんな描写を、一九三〇年代の終わりに、ピレネー・ゾリアンタール県において共産党員で描くことができるか。ユマニテ紙の、そしてカタルニャの労働者紙の読者、八人について一人の共産党員は、一九三三年以前に共産党に加入した、一九三六年以前に五人について一人、共産党員は、少しも気持を知らない。反ファシズムによって共産党に來た、共産党員は、特にスペイン共和国に関して、外国の政治に彼の立場に満足している。徹底的に、人民戦線の征服を進むように支持者、共産党員は、社会闘争に対して共産党の支持において、そして、一九三六年五月一六月の約束を守るように意思において、見当が付く。北カタルニャの労働運動の統一された伝統によってマークされた、共産党員は、両党の統一を実現する目標として、社会党でなされた接近の企てを承認する。共産党が、国政選挙を考察する重大さは、Pリテラの到着以来、党の色々なデモに主宰する、規律のように、共産党員を安心させる。追隨主義者よりもっと彼の約束を満足して、社会党が、当時ソ連邦に起こる、訴訟について、留保、さらには議論された批判を表明する時、疑いは、約束を軽く触れない。Pリコンボーは、返事を引き受ける。返事は、疑いの影を含まない、そしてドリオによって証拠を作って、ソ連邦に全体的信用を確認する。社会主義の祖国、ソ連邦は、嫌疑を掛けられることはできない。疑う人々は、裏切者たちである。一九三六年八月から一九三八年一月まで、一八名、すなわち、追放の弱い数は、共産党の加入者たちの一般的な順応主義を強調する。もし、カタルニャの労働者紙の論説と色々な証言を横切って、人民戦線の人にピレネー・ゾリアンタール県の共産党員のある心理的特徴を描くことは、従って可能であるならば、確信をもって、彼の描写の社会学的な輪郭を描くことは、もつと困難である。^(六)

社会学的な輪郭 実際、フランス共産党のカタルニャの地方の組織の状況は、一九三九年に党の解散の時、消滅した。そして、警察の部局は、党の加入者たちのいかなる網羅的な名簿を作製しなかった。しかしながら、多分一九三八年の流れにおいて確立された、そして一九三九年一月にピレネー・ゾリアンタール県の県知事に対して延期された、共産党の

活動家たちの名簿は、保存された。特別委員たちと彼らの監督官の主導権に任された、単に活動家たちを記帳するような共通の彼らの欠陥を加えて、彼らの正確さの程度は、小郡によれば非常に易い。特別委員たちによって作製された名簿によって提供された三一六の名前の全体について、半分以上は、シエレ郡から来る、その残りは、ベルビニヤン等から来る。その活動が、ぶどう園の栽培によって支配された、そして共産党の勢力が、無視できなかった、リヴザルト等の小郡についてすべての資料のこの全体における欠如は、農民たちの役割を軽視しながら、少しこの統計的な連続の信用性を歪曲する。官吏たち及び相当する人たちの活動に対して、特別委員たちによってもたらされた過度の注意は、これらの社会的集団カテゴリーの重要性を誇張するのに、いずれにせよ、人々は、一九三八年にピレネーヅリアンタル県の共産党員たちの全体の一〇%以上の年齢と生まれに及び一三、一%の職業に掛かる構成要素を所有することは、事実である。それは、確実な代表権のサンプルを構成する。

—カタルニヤの多数派 もし共産党の加入する型が、ピレネーヅリアンタル県において、カタルニヤであるならば—われわれのサンプルの共産党員たちの八二、二%は、県において生まれる—、無視できる少数派は、少し九%以上の別の県から来るし、そしてとりわけスペインに生まれた彼らの非常に大きい多数派において、少し八%以上の外国から来る。この最後の数字は、不意を襲うことができる。その理由は、数字は、一九三六年の人口調査の時、全体の人口において外国人たち（一一、二%）のとスペイン人たち（九、七%）のそれぞれの役割より下である。この矛盾は、単に明白である。特別委員たちによって提供された情報は、非常に稀な例外を除けば、その役割が、はっきりと、全体の人口（二、四%）におけるよりもっとフランス共産党の活動家たちの間に重要である、単に帰化人たちに関係がある。もし人々が、警察の部局の算定されない宣言に対して、信頼の最小限を提供するならば、人々は、従って手に入れられた結果をニュアンスを与えるように、そして結果が、単にピレネーヅリアンタル県において共産党の構成要素の一つ、フランスの構成要素に関係があることを考察するようにしたい気になる。

一年齢の力と男たちの法則 カタルニャの共産党の活動家は、一九三〇年代末で、若い人間である。疑いもなく、二〇歳の最小限のことは、共産党の加入者たち(二、四%)の間に代表されない。この弱い割合は、青年問題の特別な運動の存在、共産主義青年同盟によって説明される。これに反して、二〇―二九歳(二四%)と三〇―三九歳(三六、二%)という、年齢の区分は、はっきりと多数派である。そして警察の部局によって提供されたサンプルの六〇%を超える。県の成人した人口の全体において、区分は、四〇%に到達しないのに、その前の区分よりもっと控え目とはいえ(区分は、ピレネー・ゾリアンタール県の全体の成人した人口において、一六、二%に反対して二二、五四%に到達する)、共産党の内部に、四〇―四九歳という年齢の区分の超代表団は、先ず第一に活動的な青少年と関係があったため、一九三六年の加入の波は、同様に一九一四―一九一八年の戦争に参加した、人間たちを被害を受けたことを、指摘する。そのように、共産党の加入者たちの募集は、一九三六年の周りに、二〇歳から五〇歳まで、労働力人口の年齢のあらゆるクラスにおいて、作られた。約五〇クラスの先に、諸関係は、逆にされて、五〇歳を越えた、男女たちが、県の成人した人口の三六%を代表するのに、諸関係は、共産党に対して一五、九%の外にはもはや存在しない。一九二〇年代の間、共産党を接合した及び離れた、人々の一部分は、そこに戻らない。共産党の活動家たちの年齢によって配分を特徴づける、この相対的な均衡は、人々が、性によって彼らの配分を考察する時、再び見出さない。一九二〇年代の間と同様に、婦人たちは、共産党の集団の主要な部分を欠けている。三二六人の活動家たちの総数について、七人の婦人たちは、ただ引き合いを出される(すなわち、二、二%)。六人は、妻たち等である。一人は、職業、退職して教諭の職業を営む。疑いもなく、この状況は、カタルニャの地方の指導者たちから逃れなかった。しかし、彼らの稀な努力は、活動家たちの無理解に衝突したし、彼らは、少しも粘り強く続けられなかったように見える。彼らの加入者たちを説得するのを拒否して、指導者たちは、共産主義青年同盟に対して、党の活動に婦人たちの参加を将来のため準備するように、心遣いを任せた。彼らは、従って、女教諭たちが、連盟指導部にまで重要な役割を演じた、フランス社会党に対して、活動の場を放棄した。

社会的な生まれ 活動を行使する、共産党の活動家たちの社会的諸集団による配分は、しかしながら、人々が、全国的レヴェルで見付けることはできる、はつきりと大きな均衡を疑問視されることなしに、カタルニャの共産党員たちの状況の獨創性を知らせる。

―労働者の優越性 工業の労働者たちは、警察の部局によって提供された、サンプルの最も重要な社会的グループを構成する。ただ県の労働力人口の全体において一三、二％のため、注視された活動家たちの二五、六％を再編成して、グループは、党の労働者の定着の表現である。疑いもなく、人々が、従って、注視されたサンプルの内に及び労働力人口において、色々な社会的集団の配分の間、確認することはできることを隔たりは、もし人々が、工業の労働者たちに対して、農業労働者たちを付け加えるならば、縮小する。交通機関の職員たちの付加は、逆の結果に帰着する。労働者たちの集団は、結局、労働力人口の全体のため提供されたデータと比べれば、活動家たちのサンプルにおいて過大に評価される。実際、交通機関のサラリーマンたちと労働者たちが、単に一九三六年に、ピレネーゾリアンタール県において、労働力人口の二、六％を形成するのに、サラリーマンたちと労働者たちは、それぞれに、警察によってブラックリストに載せられた活動家たちの一二、二％と一〇、九％を提供する。鉄道の労働者たちとサラリーマンたちにとって、警察の過度の注意がどうであろうと、偶然の一致は、単に警察の熱心の結果であるため、一九二〇年代においても一九三〇年代の定員数の上昇の時も、共産党の発展において鉄道労働者たちの役割と重要性について、アックリエジェルの観察でもって余りにも重大なことがある。

―農民の定着 従って広い意味で理解された、活動家たちのこの全体において最初の場所を占めるため、労働者たちは、多数派ではなかった、そして、自営農たち、小所有者たちでもって立役者を分け合うはずである。手際よく重大性の第二の集団、農民は、単に、全体の労働力人口における農民の役割が、三一、八四％である時、注視された活動家たちの約一九％を代表する。しかし、警察の部局によって確立されたサンプルの空白が、本質的に最も農村の小郡の欠如を切望して

いる程度において、人々は、共産党の内部に農民の代表権が、いささか軽視されたことを考えることはできる。いずれにせよ、われわれを従って与えられる、数字を考慮に入れて、農民は、単独の工業の労働者たちの重さを均衡を取るよう遠くないことは、事実である。ピレネー・リズリアンタール県において共産党の内、小農民の影響力の永続、カタルニャのゲード主義から相続された定数は、新しい回で、浮き彫りにさせる。われわれのサンプルにおいて、商人たちと職人たち及び官吏たちの二つの集団が、重さをなす、それぞれの重さは、もつと驚くべきである。

— 小商人たち及び職人たち、共和的な伝統 活動家たちの一六、三八%を表す、最初の小商人たちの重要性、疑いもなく、重要性が、県の労働力人口を賛成する、問題のかなり近い割合(単独の商人たちに対して一〇、七七%)は、共産党の演説が、商業あるいは仕事場の彼らの資金の、しかし恐慌の結果に対して敏感な所有者たち、すなわち、人々と関係があることはできたことを知らせる。人々は、しかしながら、カタルニャのゲード主義の最初の時期と、とりわけ、ミラスでA=ジャンドルあるいはペルピニャンでJ=ポック Jean Poch のような人間たちに基づく、一九三〇年代の真中で共産党の再生の間に、ある継続を見るように当惑することはできない。

— 官吏たちの殺到 公共事業の官吏たちとサラリーマンたちのケースは、いささか困惑させる。彼らが、単に全体の労働力人口の六、二%を表すのに、彼らは、活動家たちの一四、八%の割合に到達する。一九二〇年代の統一社会党の及び共産党の伝統を引き合いを出すことは、もはやここで足りない。確かに、教員たち、特に教諭たちの重さは、共産党の創設の時、重大であった。しかし、一九三八年に、彼らは、単にわれわれのサンプルの二、七%を表す。もし、一九二〇年代の初めに居合わせる、郵便局のサラリーマンたちが、およそ同じ重要性を持つならば、新しい要素は、活動家たちの六%、財政の官吏たちから来る(単独な税関吏たちに対して、四%)。『二百家族』に反対するフランス共産党の激しい攻撃、脱税に反対する闘争への党のアピールと財産について課税の党の提案は、金持ちたちについて、国家の意味と財政の厳しさが、同じ様式について結び付いたため、ある官吏たちの傍らに注意深い耳を見出したように見える。結局の

ところ、そしてサラリーマンたちの弱い割合、四、一%で考慮に入れながら、少し県の労働力人口の全体にとって手に入れた数字に下の数字は、われわれを、この分析の期限に対して、いささかわれわれの最初の印象をニュアンスを与えるように仕向けられる。

―複雑な社会学的な現実 確かに、共産党は、相対的価値に、党の最初の構成要素である、ピレネーゾリアンタール県において、正当に労働者階級を引き合いに出すことはできる。しかし、農民たちと商人たち及び職人たちの付加は、前資本主義の生産様式で従属する労働者たちで形成された、中産階級で、党の真の基礎を作らないか。規定での労働者たち、鉄道労働者たちと官公吏たちの強い割合は、カタルニャの県において、労働者階級の党と同様に、共産党が、共和国の社会的考え方に伝統的に執着された民衆階級の党であることを、われわれを感情において確認するようになる。もし、この社会的構成において、党の活動について選挙の気掛かりの大きな衝撃によって特徴づけられた、政治的行動の説明を見えることは、危険であるならば、その説明が、地方的指導部の社会的構成において、歪められた、党の活動を説明するのに貢献することは、疑いはない。

―反映と歪み、地方的指導部の社会学 一九三七年二月一日、選ばれた地方的委員会の三〇人のメンバーたち（大部分は青少年）について、全体の二六、七%を表すため、労働者たちは、交通機関のサラリーマンたちと労働者たち（二三、三%）の、商人たちと職人たち（二三、三%）の及びサラリーマンたち（二〇%）の後を追われた、官公吏たち（一六、七%）と農民たち（二〇%）によって直ぐ後から付いて行かれる。本質的に教諭たち（五人に対して四人）の、官公吏たちは、彼らを、ピレネーゾリアンタール県において党の指導機関の内に、労働力人口において、彼らの重要性をもって、共通の措置なしで、活動家たちの間でさえなしで、影響力を保証する、専門性に対して真の奨励金の恩恵に浴するよう見える。疑いもなく、地方局の構成は、農民の代表権を犠牲にして、著しく労働者たちの割合（一二名に対して五名、すなわち、四一、六%）を引き上げながら、従って導かれた不均衡を收拾するように努力する。この農民たちの相

対的な消失は、地方局の構成が、地方の内デベルピニャンとミラスの支部によって行使された支配権の役割の働きをし、技術的な諸理由を持っている。その上、もし人々が、支部の指導部あるいは書記局のレヴェルの方に分析を続行するならば、労働者たちの重さは、減じながら進行する。一九三七年末まで、一三の支部について、六の支部は、それらの先頭に農民を持っている、あるいは二の支部は、官公吏を持っている、一の支部は、職人を及び四の支部だけは、労働者たちを持っている。ここに、ピレネー・ゾリアンタール県における労働運動に対して伝統的な、農民の支配的特徴は、その権利を取り戻す。地方的書記局に対して、農民の欠如は、都市に勝つのを農民を、労働者階級について中産諸階層を妨げない。ピレネラのサラリーマンの、Fリマルティの教諭の側に、樽屋労働者、Lロックは、ぶどう栽培の仕事に結び付けられた、及び辛苦が、職人の枠において実行させる、古い労働者階級を見栄えがする。疑いもなく、この責任のレヴェルで、社会的集団への所屬と行使された機能の間に、いかなる機械的な関係は存在しない。しかしながら、Aクリエジェルが、党の指導機関において、一九三〇年代の共産党に参加させる、労働者の性格は、ピレネー・ゾリアンタール県における現実ではないことを、われわれを確認する必要がある。同時に、ピレネー・ゾリアンタール県における共産党の社会的構成の反映、及び地方局のケースとして、強い労働者の代表権の要求でもって妥協、すなわち、党の全体における地方的指導部は、完全に、カタルニャの民衆的諸階層が、それらの階層自体で自分に与えた、イメージにほど近いように思われる。ブーラ主義からゲード主義まで、次いで一九二〇年代初めの共産党まで、その諸階層は、社会主義とプロレタリアートが、共和国と韻を踏んだ、動きの時を経た分派のために見当が付いた。

『大衆的諸組織』のサークル 曖昧さを欠かない、この状況の結果は、党を活動家たちのサークルの先に、党の影響力を広げるように認める、色々な大衆的組織の配置によってなお際立たせる。確かに、人民観光協会あるいは『反戦と反ファシズム婦人たちの世界的委員会』のように、諸組織間のある諸組織は、少しも現実ではない。さらには在郷軍人共和連盟のように、いかなる現実ではない。しかし、全体として、それらの組織は、一貫して変わらない活動を發揮する。初

めて一九二〇年代の真中以来、共産党は、ピレネーゾリアンタール県において、市民社会の内に中継を自由にする。党の急速な発展の最初の時期に生まれた、その県は、その代わりに、この発展に影響を及ぼす、そして選挙の衝撃のように定員数の安定を保証するのに貢献するだろう。

— 共産主義青年同盟 未来の共産党の活動家たちの育成場、諸共産主義青年同盟のカタルニャの地方は、一九三七年以降、別々に全体の組織になるため、小さい党になるのを止める。確かに、共産党と連絡は、成人した共産党員たちの共産主義青年同盟の地方局の集會に参加によって、そして逆の意味で、共産党の地方局に対して共産主義青年同盟の地方的書記の及び彼らのそれぞれの管轄の支部の事務局に対してサークルの連合の書記たちの所屬によって、保証されるように続ける。もし組織の構造が、党の構造に平行するならば、一九三七年から、青少年の細胞の用語を取り替える、サークルの用語は、語彙自体において、運動の特殊性を確認するように願う。人民戦線の成功から生まれた熱狂を、共和的スペインで連帯を利用する、同時にロマン主義に対して、青少年の行動の寛容に対して及び趣味に対して話し掛ける、共産主義青年同盟の地方は、その定員数を増大する、及び一九三七年初めで、五〇のサークルのために一、〇〇〇人の加入者たちを越えるように見える。その地方は、際立って急進党青年同盟及び二五〇人の加入者たちで口座に記入された、はつきりと社会主義青年同盟を追い抜く、従って、ピレネーゾリアンタール県の青少年の初めての組織になる。その地方の定着は、単に不完全に党の定着を取り戻す。もしペルピニャンのサークルの連合が、ペルピニャンの支部に垂れ下がりながら、共産主義青年同盟の初めての組織であるならば、連合のそれは、県の指導部においてその活動家たちの役割（地方的委員会メンバーたちの三〇%、地方局のメンバーたちの六一%、そして地方的書記局の全体）を証言する。サークル及び農村のサークルの連合の重要性は、機械的に細胞と支部の重要性を反映するところではない。党よりもっと柔軟な組織、共産主義青年同盟は、党が、単に慎重に身を危険をさらした、道を探検するように仕向けられた。人々は、スペインの諸事件と連絡して、カタルニャの独創性の承認と確認を経験した、共産主義青年同盟は、先ず第一に、党が、それに掛かり合う

ような危険を冒す前に、共産主義青年同盟によって印を付けられたことは、思い出す。同様に、共産党の枠内で、婦人たちが、演ずることはできた、役割の問題は、共産主義青年同盟の枠内で、返事で受け取った。

―娘たちの連合― 一九三六年末、全国的レヴェルで同時にピレネー・ゾリアンタール県において、若い婦人たちに対する特別の応待の構造の動きを内部に、娘たちの連合という創立は、単に前方に強く内気な歩調を構成するように思われるかも知れない。しかし、創立が、対立させた性の若い人々の間に諸関係に関して、当時心性によって到達されたレヴェルを反映するように見えたとはいえ、娘たちの連合の誕生は、女の参加を考慮して、そこまで、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党の活動家たちの集団によって観察された、態度と相反して、登録した。娘たちの家の書記は、サークル連合委員会において、場所を占めた。そして、娘たちの連合の地方的書記、R = プランク Rosette Blanc 及びその輔佐役、F = ブュイ Françoise Puig は、共産主義青年同盟の地方局に対してすべて二人の選挙当選者であった。そのように、娘たちの連合の及び共産主義青年同盟の観点によって、婦人たちが、党のあらゆる規模に対して、責任を行使することはできた、考えは、その道を作った。一九三九年に、婦人は、共産党の地方的委員会に対して選ばれるであろう。娘たちの連合の経験は、地理的に制限されたままであった。シエレ等の家を除けば、二〇〇人と五〇〇人の加入者たちの間、娘たちの連合の諸勢力の主要な部分は、ペルピニャン及びエルヌ等の近い村落において、集中された。

―ユマニテ紙防衛委員会― 共産主義青年同盟より同じ共産党で近さの関係において、ユマニテ紙防衛委員会県連合は、共産党新聞の普及の単なる道具ではなかった。確かに、ピレネー・ゾリアンタール県のユマニテ紙防衛委員会は、一九三六年から一九三八年まで、七〇〇号から約九〇〇号まで(ペルピニャンのため約三分の一)、日曜日のユマニテ紙の売上を移動させるのに到達した。しかし、その委員会は、特に文化的な及び比類のない戦闘的な活性化活動の場所であった。各金曜日、新聞の小包の受領は、古いペルピニャンの中心でなされた。そこで、熱い環境において、街区と村落に当てられた小包を作製するため、ユマニテ紙の若い及び年老いた普及者たちは、自分を見出した。発想は保証された、公売は、

各日曜日、共産党の存在を確認するように及び住民で、形式主義がない接触を維持するように機会であった。ペルピニャンで街区の地理的な基礎について、そして村落の県の残りにおいて組織された、ユマニテ紙防衛委員会は、かつてうんざりさせられた聴衆の傍らに率直な成功を知った、パリィコミューンについて組立ての周りに組織された、色々なお祭りの及び文化的な活動、舞踏会、映画の上演及び特に劇場の上演の主導権のものであった。単に活動家たちの限られた数、せいぜい一〇〇を所有しているとはいへ、ユマニテ紙防衛委員会は、新聞の売上によっても共産主義イデオロギーの普及の委員会の文化的行動によっても、本質的な構成要素の一つであった。

—ソ連邦友の会 同様に、イデオロギーの場について、実は、ソ連邦友の会は、置かれる。ピレネー・ソリアンタール県における友の会の発展（一九三八年までペルピニャン人たちは、一九三六年八月に、Fマルティ等が、ソ連邦に行つた旅行によつて大いに援助された。辛うじて県において戻つて、これらの人々は、人々が、当時Aジッドのソ連邦への回帰によつて突如開始された論争の中心にあつただけに一層多く成功でもつて、集合と論説を増やして、急いで彼らの旅行の印象を知らせた。Pコンボアの書記として、Fジュリの補佐役書記として及びFマルティ等のような人間たちの抜きん出たメンバーたちとして一緒に、ソ連邦友の会は、まず第一に文化的グループとして認められた。たとえ分析は、彼らの指導部に対して、共産党の地方局の三人のメンバーたちと党の地方的委員会の五人のメンバーたちが、所在したことを指摘するとしても、ソ連邦について情報の普及は、一九三六年七月から一九三九年八月まで、一四の映画を上演されるはずであった、映画愛好会を横切つて、ペルピニャンで、行われた。これらの上演は、左翼のあらゆる領域から来た映画の愛好者たちを集めた。そして、資格中、映写された作品の抒情味は、同じイデオロギーを引き合いに出した、党に対して場を単に準備することができた。しかしながら、映画愛好会は、単にソ連邦友の会の多数の文化的活動の局面の一つを構成した。ピアPiaの支部は、県において有名になった、オーケストラと合唱団を、一九三〇年から、組織した。一九三七年七月に、ソ連邦友の会は、スポーツクラブで補助金を寄付された。友の会は、社会党の責任者たちが、出席

するのを無視しなかった、会議を増やしたのに、ピレネーヅリアンタール県の非共産党の左翼の内部に、ソ連邦友の会のこの浸透は、同時に、当時、民衆運動の全体について、ソ連邦が行使した魅惑によって、しかし、一般的使命に対して、文化的連合で行動した、ピレネーヅリアンタール県のソ連邦友の会の共同の実践によって、説明される。一九三七年六月から一九三八年五月まで、ソ連邦友の会は、八つの封切りと同様に組織した。当時、労働者たちと知識人たちは、自分を見出した。訪問の間に、友の会は、文書の観点によって、それらを印象を交換した。変化された記帳に演じて、ソ連邦友の会は、共産党員たちとある社会党員たちの間、関係があることはできた。友の会は、左翼の内部自体に、モスクワの訴訟を引き起こした、及び通りすがりに、一九三四年—一九三六年以来、ピレネーヅリアンタール県における共産党によって、獲得された態度を根元を掘り崩すような危険を冒した、ソ連邦について、従って批判の波の堤防の素晴らしい道具を構成した。なお、文化的領域において、実は、労働スポーツ体操連盟は、彼の行動を案内した。

—労働スポーツ体操連盟 労働スポーツ体操連盟は、共産党が、党の細胞に対して、労働スポーツ体操連盟の地方的大会に対して、代表たちを派遣するように要求した時、一九三七年六月に、単に六つのクラブと三四人の登録選手たちという、非常に弱い規模の組織であった。その連盟は、従って、共産主義青年同盟の細胞のあるいはソ連邦友の会の主導権に創設された、スポーツのクラブを再編成した。ペルピニャンで、そして隣りにおいてよく定着された、労働スポーツ体操連盟は、ヴァレスピル Vallès-pi 等に、重要なクラブで連盟に加入させた。要するに、その連盟は、その加入者たちに対して、住民の最も優遇された階層に対して、スキーを留保されたスポーツの手ほどきを提供するようにできる、『カタルニャのスポーツの前衛』という、連合を自由にした。労働スポーツ体操連盟の発展は、一九三八年に沿って重要であった。一九三八年八月に、その連盟は、単に八つのクラブと二〇〇人の登録選手たちを要求した。一二月に、その連盟は、一四のクラブと六〇〇人の登録選手たちに到達した。しかしながら、可能性から見れば、総括は、控え目のままであった。連盟の敵たちによって、政治的組織のように考察された、労働スポーツ体操連盟は、帰属された。『共産党の』レットルに

よつてハンディキャップを付けられた。大衆的組織よりもっと、その連盟は、まず第一に、共産党のスポーツのクラブであつた。

—フランスの人民救助隊 文化的諸組織より、共産党について同じ自治の明白な関係において、一九三七年にフランスと植民地の人民援助隊になつた、国際的赤色救助隊は、一九三七年の真中から、スペイン共和国への援助の行動が、その発展を促進した時、とりわけ共産党の政策の無視できない中継を構成した。一九三八年に数一〇〇人の加入者たちに支えられて、フランスの人民救助隊は、しっかりペルピニャン等で、そしてミラスとリヴザルトで、定着された。しかしながら、その強い主要点は、すべて近いスペインの悲劇に対して、直接の感受性が、一九三六年一〇月から、国際的赤色救助隊の地方的支部を食糧と衣服の募金の主導権を取るように仕向けた、シエレを存在したように見える。一九三八年に、シエレの人民救助隊の支部は、共産党の活動家たちのサークルの先に遠く、その影響力を広げて、その加入者たちとシンパたちのために車で遠足を準備する能力がある、真の大衆的組織であつた。最後に、大事なことを、ついに残したが、党の軌道において引力によつて廻るようになるのを最後の大衆的組織、すなわち、労働総同盟は、その県連合を共産党の活動家たちの管理の下に移動するように見えた。

—労働総同盟 ピレネーゾリアンタール県の労働組合運動について、共産党員たちのこの独占的支配は、完全に『労働総同盟の共産党の植民地化』の用語の下に、Aリプロストによつて描かれた過程に対応する。真の労働組合の殺到は、一九三六年五月から七月までストの動きを続いて起こつた。ピレネーゾリアンタール県において、労働組合の定員数は、一九三五年末で四七の労働組合のために五、〇〇〇人の加入者たちから一九三六年末で一二〇の労働組合のために一五、〇〇〇人の加入者たちまで、移つた。弱められたやり方とはいへ、組合の組織化への傾向は、一九三七年に沿つて続けられた。一二月に、ピレネーゾリアンタール県の労働総同盟県連合は、一六六の労働組合と二一、〇〇〇人の加入者たちを数えた。労働総同盟の新しい定員数の大部分は、当時農業労働者たちと建物労働者たちで構成された。最初の農業労働

者たちのため、ピレネーヅリアンタル県における労働組合の数は、一九三五年に約一〇から一九三七年二月に五八まで移る。最重要の共産党の活動家たちによって指導された県連盟に再編成された、サンディカリスムへの新参者たち、当然、実は、農業労働者たちと建物労働者たちは、労働総同盟の内に、共産党の言説を取り戻す。一九三六年二月二〇日の県連合大会の時、J^ニベルタ(書記長)は、A^ニソーニエール Andre Samières が、宣伝への常駐代表になったことは受け入れるはずであった。A^ニソーニエールは、一年に二七〇の宣伝集会を保証して、四三の新しい労働組合を創設して、一八のストを指導して、A^ニプロストの表現によれば、素晴らしい『サンディカリスムのセールスマン』であっただろう。新しい労働組合の真の経験豊かな指導者、A^ニソーニエールは、労働総同盟の県の指導者たちの最も有名なベルピニヤンの外に、労働組合の典型自体になった。今後、県連合の書記長は、ある意味で無視された、県連合の労働組合の間に諸関係は、宣伝への代表によって優先的に移動した。結果は、一九三七年二月にピレネーヅリアンタル県の労働組合連合の第二六回大会に対して、期待させなかった。J^ニベルタの精神的な報告は、採択されなかった。A^ニソーニエールは、ベルタを書記長の部署に取り替えた、そして、宣伝への常駐委員の機能は、廃止された。旧労働総同盟員たち(ベルタを先頭に)は、ベルピニヤンの地方的連合と労働取引所について、後退した。J^ニベルタは、容易に書記長に再選されたし、旧統一労働総同盟員たちは、ベルピニヤンの地方的連合の執行委員会から除いた。労働組合の行動紙が、地方的連合に所属して、ベルタは、従って県連合をその新聞機関紙を奪って、彼の最初の目的に対して、書記長を返した。カタルニヤの労働者紙は、県の労働組合の報道に対して四分の一と半頁の間に捧げながら、このハンディキャップを姑息な手段でしのぐように試みるはずであった。一九三八年春で、地方的連合が、ベルピニヤンの建物の労働組合の観点によって、新しい県の書記を攻撃して、カタルニヤの労働総同盟の内部に、辛い雰囲気は、支配した。県の書記は、彼が、党の固有な執行委員会に対して、不信任の動機を投票した、労働取引所の一般的委員会を手に入れながら、答えるはずであった。一九三八年六月二十九日、ラカモンの到着は、二つの党が、公にもはや論争しないことに意見が一致して、和解策

に到達するように可能にした。しかし、今後、ピレネー・ソリアンタール県において、二重の労働組合の権力は、存在した。

大衆的諸組織の獨創性と諸限界 A・クリエジエルが語る、一九三〇年代末でフランス共産党のこの外部のカバーを構成する、六つの組織は、彼らの目標の多様性のその先に、幾つかの共通の特徴を分け合う。その使命が、闘士的活動と共産党のイデオロギーに対して、直接の政治的約束を嫌う、人々を参加させることである。大衆的諸組織は、少なくとも彼らの指導する決定機関のレヴェルで、党の管理の下に、見出される。疑いもなく、党は、共産主義青年同盟あるいはユマニテ紙防衛委員会の選択についてより同じ労働総同盟の選択の全体にのしかかるように能力を、持たない。しかし、あらゆるケースにおいて、党は、ユマニテ紙防衛委員会を影響を及ぼす。一九三八年初めで、最も重要な諸組織の一人の主な指導者たちについて（労働総同盟を含めて）、人々は、共産党の一四人の加入者たちのみならず、党の地方局の五人のメンバーたちと党の地方的委員会の一〇人のメンバーたちを数える。外部で責任を行使するために党によって派遣された、指導者たちは、地方的委員会と不一致の場合に責任を失う。P・コンポーは、一九三八年末で、その経験を作るであろう。その理由は、――労働総同盟のケースを除けば――大衆的諸組織と党の間関係は、彼らの加入者たちで知られる。境界を定められた目標に対して、諸連合は、彼らの実現に到達するばかりでなく、お祭りの局面が、宣伝の口実を取る、共通の実践によって彼らの加入者たちのグループを構造化するように努力する。しかし、共産党の一般的な装置において、これらの組織が、重さをなす、重さを誇張しないことは、相応しい。実際、諸組織の活動的な基礎は、もし一方である社会黨員たち、他方で多数のシンパたちが、彼らの結集者、すなわち、使命を正統化するならば、共産党の活動家たちでできている。彼らの活気の重責は、共産黨員たちの肩に根拠を置く。疑いもなく、それは、計算に彼らの影響力を測るように欲するのが、無駄なゲームになるであろう。しかし、別の事柄は、影響力が、各組織において、共産党の活動家たちの総量より下であることを、確認することである。共産党のメンバー、サンディカリスト、P・ガール

シア Pierre Garcias は、ユニマテ紙防衛委員会の会計係、労働スポーツ体操連盟の議長、ソ連邦友の会のメンバーであり、ユースホステルの機会です事をする。地方的委員会のメンバー、L=トルカティス Louis Torcatis は、ソ連邦友の会の及び人民救助隊の指導部に所属する。共産主義青年同盟の責任者、R=ヴィネット Raoul Vignettes は、コート=ヴルメエイルのフランス共産党の支部の事務局のメンバーであり、ユマニテ紙防衛委員会の劇場の集団に所属し、労働スポーツ体操連盟のクラブにおいて、スポーツを實踐し、そして人民救助隊の活動に参加する。この多数の活動は、県のレヴェルで、ペルピニヤンの古い軍事的病院の建物において、大衆的諸組織と諸政党の事務局の集中によつて、容易にされた。人々は、まず第一に、ある意味で特殊化されたショーウインドーのように、党に従属する、大衆的諸組織を考察するように仕向けられる。

歩き回らされた道 結局のところ、一九三八年夏で、労働総同盟等において定着された、軽い進行に選挙民を支えられて、共産党は、北カタルニヤの左翼の上昇する勢力として現れた。地方の指導者たちが、一九三四年以来、歩き回らされた道を測った時、指導者たちは、正統な誇りを感じることができた。しかし、雲は、政治的展望に対して、層を成した。共産党の成功のモーターであった、人民戦線は、彼自身の影だけではなかった。正しい人たちの光栄の共産党を光り輝かせた、スペイン戦争は、民族主義者たちを考慮して回転させるように見えた。中央ヨーロッパに、ナチズムは、彼の膨張を続けた。人民戦線から生まれた党のために、真実の時間は、やつて来た。党の新しい加入者たちは、幻滅の試練に抵抗することはできたであろうか、党の指導者たちは、消え失せられた夢と並んで現れることはできたであろうか。困難な時間^(七)は、始まった。

もし穀粒は痛められないならば（一九三八年八月—一九三九年二月）

一九三八年夏の終わりと秋は、東部で、ナチの脅威は、膨れたのに、人民戦線の見せ掛けの生存についても、スペインの共和派たちの勝利についても、共産党員たちが養った、最後の幻想は、消え失せるように見えた。一九三八年八月二二日の彼のラジオ放送された演説において、E「ダラデイエは、四〇時間制について、当時の困難を拒否しながら、すべての曖昧さを取り除けた。フロサールとラマデイエの辞職（すべて社会主義共和同盟の二人のメンバーたちとそれぞれ公共事業及び労働大臣）は、政府の中央右派の動向を強調した。人民戦線は、体験された。

いずれにせよ統一論者たち この失敗で、共産党員たちは、諦めて受け入れなかった。しかし、彼らの主なパートナー、社会党は、一九四〇年のために予測された国民議会議員選挙の目標として、せいぜい選挙協定の結論を予測して、足を引さずって歩いた。しかしミュンヘンの前夜で、人々は、人民戦線が、ドイツの脅威の前に、その遺骨を復活しようとしたことを、信じる事ができた。一九三八年九月初め以来、カタルニャの労働者紙は、ヒトラーの要求に直面して毅然たる様を褒めそやした。『平和は、ヒトラーに反対して及びヒトラーにかかわらず救られるであろう』と、九月一七日と二四日の号においてチェコスロヴァキアの運命をスペインの運命に結び付ける前に、P「テラは、一〇日の号において書いた。彼は、そこで、最終回で、妹の共和国の周りに現れるようになった、ピレネー「ゾリアンタール県の左翼の諸勢力の合意の基礎を見出した。九月二三日、人民戦線県委員会は、集まった。出合いの結果で、県委員会は、労働総同盟、社会党、共和急進及び急進社会党、共産党と在郷軍人連盟連合によって署名された、コミニケを公表した。ピレネー「ゾリアンタール県において民衆運動の見出された全会一致は、ミュンヘン協定が存在したために、全国的及び国際的事件に打ち勝

つことはできなかった。それは、予測できたように、全会一致は、協定を少しも生き残らなかった。ミュンヘンが、平和を救った、考えは、ミュンヘンの道を作った。ミュンヘンをピレネー・ソリアンタール県の共産党員たちを妨害するため、強力にカタルニャの連帯を要請しながら、スペインのドラマの現実は、ミュンヘンを対立させた。地方的言い回しで、戦争の及び平和の問題を提起して、Lロックは、一〇月一五日、地方局の名で、彼の同国人たちを訊問した。ロックのアービルは、住民が、国際旅団の義勇兵たちの復帰によってスペインの悲劇に敏感になっていただけに一層多く、理解させるようにチャンスを持っていた。大きな大隊を提供したように誇りを思った、共産党によって大々的に行われた、『自由の義勇兵たち』に対して留保された応待、そして『われわれの親愛なAマルティ』という権威ある指導者は、社共同盟の息子たちを結び直すように試みるように機会であった。義勇兵たちのレセプションのために応待の委員会への参加は、統一された性格をマークした。一九三八年一月五日のカタルニャの労働者紙において発表された論説において、Jグレザ Jacques Gresa は、義勇兵たちの航跡はにおいて、あらゆる住民を引き起こして自分の力を試した。一九三八年一月一二日、二つの列車は、シェルベールで現れた。第一の列車は、一三時三〇分まで到着して、Aマルティを運んだ。第二の列車は、単に二〇時で駅に入った。ピレネー・ソリアンタール県の義勇兵たちは、列車の車内でいた。義勇兵たちは、カタルニャの社会党議員たち、パレイル等、共産党代議士たち、ジトン等によって、ピレネー・ソリアンタール県の県知事の前で、迎えられた。数一〇〇人の活動家たちは、移動した。一七時で、国際旅団によってスペインに完全に実現させた事業を賞揚した、Aマルティの主宰の下に、集会は、催された。夕方、ペルピニャンで、数一、〇〇〇人の人々は、『自由の支持者たち』を歓呼で迎えた。再会の喜びを移動させた、スペイン共和国のために暗い展望の背景に終了した、この偉業で、多数の活動家たちは、楽天主義の方に傾かせられなかった、結論から引き出した。差し当たり、応待において社会党員たちと共産党員たちの明白な構成単位は、旅団の義勇兵たちに対してなされる。スペインに帰った時活動家たちを活気づけた、集会は、一九三八年一月に軽い加入の利益を記録した、共産党の地方に役立ったように見える。同様

に、信頼で、実は、ピレネーヅリアンタール県の共産黨員たちは、緊急政令に反対する闘争を立ち向かった。

一九三八年一月三〇日のスト、どっちつかずの ミュンヘン以来、共産黨員たちは、ダラディエ政府の対内政策と対外政策を、彼らの批判において、関連づけるのを止めなかった。『ダラディエ氏は、悲惨の及び戦争の政策のためにミュンヘンで教訓を選び取ったか』。一〇月九日のカタルニャの労働者紙は、尋問した。内閣総理大臣の人柄について、彼らの攻撃を集中して、共産黨員たちは、地方的に、急進党のリーダーたちを除いて、少なくとも急進党の選挙民を慎重に準備するように努力した。彼らが、カタルニャの感情の対外政策に演じたように共和的伝統を演じて、共産黨員たちは、Eリッラディエの真の反テーゼ、共和派たちのモデルの高い表象を引き合いを出した。一九三八年一月二日と二三日、發布された、緊急政令は、共産党によって予測された、数か月以来、発展の頂点のように現れた。人民戦線の主な経験（四〇時間制）の再問題視の前に、義勇兵たちの応待に主宰した、共社連合は、延ばした。一月二五日金曜日、共産党の及び社会党の協商の県委員会は、ベルピニャンで、三、〇〇〇人の人々を集める、緊急政令に反対する集会を組織した。労働総同盟の執行委員会によって、一月三〇日のため、決定された、二四時間のストは、ピレネーヅリアンタール県において、有利な場を見出すはずであるように思われた。運動の成功は、緩和された。ベルピニャンで、建物の労働者たちは、九〇%以上で失業した。理髪師労働者たちは、七五%で、農業労働者たちは、九〇%で、及びボール紙の労働者たちは、午前一〇〇%で失業した。しかし、労働者たちは、直接の解雇の脅威の下で、労働を取り戻した。小さな工業の中心地において、ストは、同様に持続的になった。シエレで、あらゆる同業組合は、九〇%で仕事を止めた、等々。全体として、運動は、ベルピニャンとその隣りで、そして、スペインの諸事件への感受性と五月に共産黨員たちが、そこに展開した政治的活動が、ストの成功に対して有利な諸条件を創立した、シエレの選挙区で境界を画定させたように見える、等々。しかし、それは、その限界をマークする、そして共産黨員たちのため、不均衡を失敗の苦い趣味を与えるはずであった、ストの産業部門の不均衡よりもっと少なくストの地理的不均衡である。一九三九年一月二九日、ベルピニャンの

労働総同盟地方的連合の大会に対して、J・ペルタが、それを注意したように、公共事業の官公吏たちとサラリーマンたちの欠如は、ほとんど全面的になった。戦争に国民動員令に従って、徴発された、サラリーマンたちは、政府の脅威を見逃してやるため、少しも努力で作らなかつた。疑いもなく、党の定着が、重要であつた、郵便局労働者たちと鉄道労働者たちの大量の離脱を説明するため、人々は、セネガル人たちの軍事力を引き合いを出した。しかし、現実はいささか違つていたように見える、及び多数の場合において、政府によつて配置された警察と軍隊の装置は、抑止の立派なヴェールで、運動のために明白な熱狂の不足を覆うことを可能ならしめた。ペルピニヤンのただ市議員たちと約三〇人の教諭たちは、そこに参加した。教諭たちの間、労働者農民社会党のある加入者たちは、一〇月三〇日午前で、P・コンボの彼の労働の場所について影響力を管理しようとするよりもっと緊張な任務ではなかつた。直接に告発された、ソ連邦友の会の議長は、官公吏にあつてはストの失敗に対して罪を償う犠牲者で仕えた。分野に集められた、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党地方の幹部たちの委員会は、会員一致で共産党の委員会の追放を決定した。ストの事実のために彼の仕事を失つたばかりであつた、R・トレイユ Roger Torrelles は、激しくこの決定に反対して抗議した。彼は、それに自由裁量を告発した。働いた、共産党員の郵便局労働者たちと鉄道労働者たちは、コンボは追放された時間において、容赦されなかつたか。急激に年老いた活動家を叩いた、制裁は、容易に、党の英雄化に対して支払われた価格であつた。彼のフランスに復帰以来、カタルニヤの地方に視線を保持した、A・マルティという人のスタイルにおいて、制裁は、知識人たちについて増大する不信を表した。コンボの追放は、単独の追放ではなかつた。村落のある活動家たちは、『反労働組合の態度』のために似た運命を知つていた。半分の失敗、すなわち、一〇月三〇日のストは、とりわけ大企業のサラリーマンたちのために、大量の抑止の後を追つた。建物の労働者たち等は、最初の時期において、解雇された。有罪判決から刑務所の処罰までは、目立つように最も活動家たちについて、宣告された。もしこれらの有罪判決が、必ずしもサラリーマンたちの決定を打ちのめさかつたならば、一般的な雰囲気は、数か月の間、カタルニヤの労働運動において、闘争

意欲低下のものであった。

事態に立ち直り 一九三八年一二月に、フランス共産党の第五回地方的協議会、次いで労働総同盟県連合の第二八回大会は、しかしながら、共産党の指導者たちに対して、事態に彼らの集団を取り戻すことを可能ならしめた。最初の協議会は、色々な公のデモによって、一日日曜日、続けられるため、一二月一〇日土曜日、開いた。その宴会は、四〇〇人の参加者たちを集まった。G_{II}ペリによって主宰された、影響力、及びA_{II}マルティ等は、党が、一九三〇年代の初めて知っていた、孤立に帰らせるように脅かされた、共産党の意思を、党の社会党の過去に結び合わせるように指摘した。A_{II}マルティが、マナル *Marat* で向けた、賛辞等は、集中する特徴の全体を構成した。かつてないほど、ピレネーヅリアンタール県において、共産党員たちは、第一次大戦前の社会党の遺産を要求した。コンポー追放は、彼が、実践において、労働者の主要人物の一人になった、政策を再び問題視にしなかった。相次いで、P_{II}テラとG_{II}ペリは、ダラディエによって指導された政策に反対して、フランス人民連合を及び社会党員たちで恵まれた同盟を要請した。そのように、諸事件の潮の満干に反対して、共産党は、統一された土地、すなわち、ピレネーヅリアンタール県において、スベアの解決法で見えないで、一九三四年に採択された立場に忠実のままであった。疑いもなく、G_{II}ペリによってなされた、ミュンヘン協定の骨の折れる批判は、協定を批准するように選んだ、社会党によって受け入れられることはできなかった。しかし、ペリが、国境を開くのを発したアピール、スペインに状況を想い起こして、マルティの及びヒット *Hite* (国際旅団の若い義勇兵) の演説は、ピレネーを越えて状況が、最初の不安に留まったため、社会党活動家たちと関係があるように危険を冒した。目的と手段の永続の確認は、完全にミュンヘン以来、諸事件によって取られた順番によって狼狽させられた、活動家たちとシンパたちを安心させるのに適合した。活動家たちの目印を転覆させないようは、同一の気掛かりは、地方の指導機関の選挙を支配したように見える。書記局は、変わらないままであった。地方局は、ある軽い修正を蒙った。人々は、正確に地方的委員会の構成を知らない。最も強い印象を残す変化は、P_{II}フィグエールによってP_{II}コンポーの取

り替えてあつたように見える。一九三八年一月一日、ラカモンの前で、労働総同盟県連合第二八回大会は、共産党活動家たちの意思によって、指導部の完全な均質性を保証するようにマークされた。労働組合は、連合の表象であるはずであつた。ソーニエールは、書記長を再選された。執行委員会の一七人のメンバーたちについて、一〇人は、少なくとも共産党員たちであつた。もし一〇月三〇日の相対的な失敗が、ある加入者たちを落胆させたならば、失敗は、一九三七年に、労働総同盟の内に共産党の成功を許した、勢力関係を再び問題視にしなかつた。ダラディエによつて内部に着手された、社会的後退の政策に反対して闘争するため、及び外部に、反ファシズムの固い態度を採択するため、社会党員たちでもつて接近、すなわち、戦略は、新しくなかつた。人民戦線の小さくされた変形は、全国的レヴェルで、大きな成功を経験しなかつた。県において、カタルニヤの共和軍たちの敗走を續いて起こつた、諸事件は、数週間の間、敗走を現実の上辺を与えるように見えた。

『退却』紙 一九三九年一月二七日から二八日までの夜において、フランコ軍の前哨を逃れしようと努めた、婦人たち、子供たちと老人たちの群集は、フランスの土地について、殺到するように始めた。間もなく、それは、冬の寒さにおいて、国外追放の道を取る、あらゆる人民である。重要な軍事的装置を配置した後、不意を突かれたフランス当局者は、健康な男たちを送り返すように決定する。しかし、国境に集まる、カタルニヤの軍隊の圧力の前で、その軍隊は、二月五日から九日まで、すべての人に開かれた。それは、退却紙である。九日、フランスコ軍が、ペルテュス Pertuis で到着する時、一四万四、三三九名の婦人たち、子供たち及び老人たち、四万名の市民の男たち及び二一萬の兵士たち(一萬一、〇〇〇名以上の負傷者たち)は、フランスに入国される。あふれられた、フランス当局者は、安全保障の諸問題に対して優先権を与える。もし婦人たちと子供たちが、内部の諸県の方に送られるならば、男たちは、色々な即興的に作られたキャンプにおいて、悲しむべき物質的及び人間的諸条件において、押し込められる。ある人々は、一九四〇年までそこで留まるであらう。『犯人たち』に、『泥棒仲間』になされた応待を告発する、カタルニヤの右翼の、そして左翼諸党の非常に激しい

反応の前に、ピレネーヅリアンタール県の県知事は、二月五日の命令によって、県の全体において公の集会とデモを禁ずる。全国的及び国際的重要性の現象、すなわち、退却紙は、フランス共産党の役割で、彼の措置に対して反応を引き起こした。コミンテルンの書記、A^二マルティは、その使命が、フランスにスペイン共和派たちの入国を容易にすることであつた、中央委員会の幾つかのメンバーたちを強化された、共産党地方の行動を、二〇人以上の共産党代議士たちを含む、重要な議会の代表団の行動と調整するように責任を負わせた。フランス当局者の傍らに恒久的な圧力団体、すなわち、共産党の議会の代表団は、当局者の敵意に衝突した。しかし、地方の介入に対して、国民の代表の重さを与えた。共産党の態度は、カタルニャの労働者紙が、最大の広告を提供した、一連の宣言を横切つて、表現された。二月一五日の特別号、社説が、A^二マルティによつて編集された、七万部で印刷された及びただで分配された裏表両面のページ、ピレネーヅリアンタール県の県知事で共産党代議士たちの手紙、議会代表団の宣言書、二月二五日発表されたピレネーヅリアンタール県の住民に対して、『カタルニャの市当局の連合』の住所、共産党のカタルニャの地方の宣言、そして共産主義青年同盟の宣言書は、共産党の態度の真の資料体を構成する。共産党の態度は、二つの大きなテーマの周りにつながる。一般的な最初のテーマは、ピレネーヅリアンタール県において数一〇万の男女たちの到着によつて創られた、状況に対して解決法を提案する。地方的な第二のテーマは、共和的カタルニャの敗北を、そしてピレネーヅリアンタール県の住民のために民族の表現として考察された、敗北が、特殊な歴史において、フランスのカタルニャの敗北を引き起こす、連帯の非常に大きい運動を登録する。悲劇的な明白な事柄、すなわち、ピレネーヅリアンタール県は、長い間、県の特性より優れた、追加の人口の重さを支えることはできない。スペインの兵士たちが、取り扱われるやり方、及び少し後に、キャンプにおいて支配する、悲しむべき衛生及び食料品の諸条件を告発した後、共産黨員たちは、公権力に対して一連の提案を作る。最初の提案は、本質的に政治的なものである。たとえダラディエ内閣が、フランコ將軍の政府の承認を交渉するとしても、あらゆる共産党のテキストは、県に月の初めに入れられる、八日間に軍隊で県を空にするようにできる単なる手

段として、フランコ軍を接合するように試みられる人々に対して、共和派たちのためにヴァレンシア行きに乗船の港について、ピレネーヅリアンタール県において集中されたスペインの兵士たちの撤兵を呈示する。おまけをするために、『労働者及び農民のカタルニャの市当局の連合』のアピールは、共和軍に所属する機器が、ヴァレンシアへ向けて發送されるはずであったことを明確にする。この態度は、共産党の観点から、徹底的にスペイン共和国を救助するように共産党の意思を表明するように利点に加えて、フランス政府が、フランコの好意を手筈を整えるように作る選択によって、ピレネーヅリアンタール県の住民に対して、共和的亡命者たちの延ばされた滞在を引き起こす。不愉快に関して、フランス政府を直接に責任を負わせるように利点を持っている。そのフランスに入国が、旅団の解散の時、許可されなかった、国際旅団に所属する、五、〇〇〇人の男たちの直接な解放は、カタルニャの左翼において、民衆の要求として現れる。要するに、内部の県において、市民の避難者たちを免除するような提案は、良識から生じる。ピレネーヅリアンタール県において、スペインの亡命者たちの宿泊を許可するような提案は、人間の単なる措置であるのに。共産党の解決法は、同様に、そして政府よりもっと、スペインの亡命者たちに対して、住民の連帯の試練を作ることではできた、しかし亡命者たちの堆積が、在留者たちの全体に対して走らせる、危険を気遣う、住民に話し掛ける。もし、カタルニャの労働者紙は、ピレネーヅリアンタール県の住民たちの日常生活において、亡命者たちの影響力が、提起した、具体的諸問題について共産党の態度の決定を公表したため、三週間が必要となったならば、二月一五日から、実は、A・マルティは、フランスのカタルニャの歴史に対して及びカタルニャ状態に対して、当時の状況を関連づけた。

—『カタルニャ人万歳』紙 戦争の恐怖の画面を引いて、パリの代議士は、県に対して、暗い未来を想い出した。『われわれのカタルニャの住民は、彼は、書いた、イタリアの及びドイツのファシズムによってスペインに突如開始された戦争の恐ろしい恐怖を見たばかりである。……』地方によって取り戻された、ピレネーヅリアンタール県に対して、戦争の可能な拡大のこのテーマは、結局、直接にカタルニャの独自性のテーマに対して結び付けられた。『今日、フランスの

カタルニヤ人たち、敵は、貴方の門のものである』と、従つて話をつないだ、一九三九年二月二五日のカタルニヤの労働者紙のポスター頁は、宣言した。明らかに、ピレネーヅリアンタール県における共産党の演説のカタルニヤの着色は、単なる地理的な語彙から生じなかつた。その着色は、A「マルティが、彼によれば、フランスの歴史的形成において、カタルニヤの住民を演じた、彼が、前衛の役割を描写した時、よく強く要求した、歴史的腐植土において、定着した。そのように、カタルニヤの人民の進歩主義の伝説を展開された、彼は、『われわれのルシヨンの古い農民の民主主義を構成する、立派な共和派たちの巨大な群』を想起しながら、仕上げた。三月四日、L「ロックは、フランスの政府によってフランス制度の承認に対して捧げられた論説において、松明を取り戻したし、偉大な先祖たちを助けに訴えた。共産党の演説におけるカタルニヤの参照は、新しさになかつた。しかし、参照が、今後戻った、固執は、新しい地位、すなわち、ソ同盟の必要な防衛あるいは労働者階級の中心的役割で同じなら、宣伝のより重要なテーマの地位に対して、その演説を辿り着かせた。この現象において、A「マルティの個人的マークを見る必要がある問題は、疑っていない。何度も繰り返して、就中、スペイン戦争の初めに、彼は、カタルニヤの獨創性に彼の信念を表明した。しかし、ピレネーヅリアンタール県において、コミンテルンの書記の単なる気紛れで表明された、共産党の演説において、カタルニヤの参照のものと支えられた頻発を方向を変えさせる必要がない。頻発は、亡命者たちの群衆で連帯を發展するに、及び共産党の周りに広い合意、すなわち、フランスの人民の連合のカタルニヤの説明の諸条件を創るに最も適合した手段として、自分を押し付けた。スペイン戦争の初めに同様に、人々は、カタルニヤの労働者紙において、二つの国境の側から同一の人民を結び付ける、特殊な諸關係を際立たせる。退却紙の時に、『フランスのカタルニヤ人』という表現を使用するのを置かれた固執は、先ず第一に、自分が民族的連帯の特徴であることを願う。第二に、この態度の決定は、ピレネーヅリアンタール県において、穏和な右翼と同じ利害で結ばれていた、カタルニヤ主義運動の分派を危うい立場に追い遣るよう貢献する。カタルニヤ人万歳！紙という見出しの下で、二月二五日のカタルニヤの労働者紙において公表された、署名されない論説は、

同じ見出しの下に、G＝ブルース Georges Brouse が、フランコ軍の到着が、カタルニャを扱ったように独立紙において願ったことを、想起した。二月二五日は、カタルニャの言語が、カタルニャに禁じられた、明確になる政令と独立紙の編集者を荒々しく言葉を掛けるように著者を公表された。同様に『真のカタルニャ人たち』のように定義された、共産党員たちによって催された、この演説は、地方によって二月末で発せられた、『フランスのカタルニャ人たちで』というアピールにおいて、成果に見出すはずであった。ルシヨンに重さをなす侵略の脅威に直面して、地方は、民族的局面が、すべての別の考察に勝ち取るように見えた、非常に大きな連合を褒めそやした。概して、カタルニャの言葉が、常に『フランスの』あるいは『フランス人の』補語で持続的になったとはいえ、地方的民族主義感情に対して、小さい祖国の偏流は、全体に除外されることはできなかった。いかなる曖昧さが、存続しなかったため、四月二二日と二三日、集まった、フランス共産党の第五回地方的協議会は、地方に対して、地方が、カタルニャの人民に話し掛けた、同じ運動において『ピレネー・ゾリアンタール県の共産党地方』のその最初の呼称を表現した。そのように、同時に、フランスの全体の内に、ピレネー・ゾリアンタール県の独自の存在と、共産党地方が、特別の獨創性なしで、フランスの県の基礎について構成された、フランス共産党の組織の規模であったことを事実は、宣言された。統一の道具、すなわち、カタルニャ状態は、単に統一が、足踏みしただから、非常に強く要求された。

統一の幽霊 スペインの共和派たちの集団移住は、一瞬、妹の共和国からやって来た疲れ果てた群衆に対して、救助の共同の義務で、共産党員たち、社会党員たち及びすべての感受性の共和派たちを混じった、慈善的な実践において、真の統一された民衆運動及び少なくとも真の共産党―社会党の接近が生まれようとした、幻想を育んだ。社会党と共産党、急進党派たち、社会主義青年同盟、共産主義青年同盟、急進主義青年同盟、婦人世界委員会等と在郷軍人連盟連合を結び付けて、亡命者たちに対して救助の及び応待の委員会の準備完了は、人民連合のあらゆる道に対して証明するよう見えた。事実は、この委員会は、本質的に形式的な存在を持っていた。亡命者たちへの救助は、不幸な人たちの及び善意の人々の

連合の通過の上に見出された、市当局の事実であった。多数の共産党員たちと社会党員たちは、別の慈善的な精神で相携えて、戦争の敗者たちの長い列に対して、コーヒ、パン、毛布、衣服を配分する気になっている、自分を見出した。しかし、この接近は、少しも政治的足跡を残さなかった。もし、しかしある場所に、亡命者たちへの救助が、統一された行為と宣言に対して理由を与えたならば、これらのあるデモは、共産党地方によって社会党連盟に対してなされた共同行動の提案の大部分に対して、連盟は、拒否の目的によって返答した、この現実を隠すことはできなかった。もつと悪いことは、社会党員たちは、共産党員たちについて、熱意のなさを表明した。人々は、もはや心配になることはできない。共産党員たちが、統一へのアピールを増加したのに、社会党員たちは、侮辱によって返答した。そのように、二月初めで、ピレネーヅリアンタール県において赴いた、V・オーリオールによって導かれた、社会党の国会議員たちの代表団は、その共産党の同地位にある人を出会わなかった。二月三日、スペインの亡命者たちを泊めるような口実の下に、カタルニャの労働者紙は、事務所のベルピニヤンの社会党の市当局によって、予告なしで、追放された。二月一九日、社会党員たちが、もつと小さい抗議を表明したことなしに、集会は、すべての分派の選挙当選者たちの県庁に対して、唯一の共産党員たちの追放に対して、集まった。彼らの努力にもかかわらず、党を脅かした、孤立の危険を意識して、地方の指導者たちは、亡命者たちに対して彼らの支持をもたらすように来た代議士たちの存在を利用しながら、活動家たちを召集兵たちを維持するため、多数の私的な集會を組織した。二月初めで、カタルニャの労働者紙の売上の増加は、加入者たちが、絶望しなかった、指数であった。たとえ、共産主義青年同盟への証明書の回復の時、確認されたたわみは、共産党の引力の力が、人民戦線の初めによりもつと小さかったことを、指摘したとしても。

手直し 彼らの選択において共産党員たちを力づけるため、決定は、A・ムルティの影響の下に、地方的協議会、すなわち、一九三九年四月二二日と二三日、特別の第六回地方的協議会を組織するようにパリで引き受けられた。もしスペインのシヨックは、第五回地方的協議会の四か月後、ピレネーヅリアンタール県の共産党員たちのこの新しい合法的な連

合を正統化することはできたならば、その連合は、その唯一の理由でなかったように思われる。第六回地方的協議会のお陰で、地方の先頭に人間の変化は、実際振る舞われた。地方局のメンバーに留まった、Pitteraの、Lロック書記長の部署に後に継いだ。パリで扇動―宣伝部の研修に帰った時、Lブーラは、カタルニャの労働者紙の編集主幹になったのに。数時間前、パリで当の本部に召集された、Pitteraは、そこに、直接に細胞に話し掛けるため、支部の書記たちの頭の上に通過させるように、中央委員会のメンバーによって、避難するように理解し合った。私の意見によれば、より小さい不満は、単に口実であった。彼の追放の理由は、疑いもなく、Aマルティが、彼のそこで生まれた県の共産党諸組織に到らしめた、利害に執着した。Lロックについて現実の影響力を持つようにもっと保証された、彼は、宣伝に委員に指定された書記が、最も高い地方的責任に辿り着いたため、あらゆる彼の比重を重さをなすはずであった。疑いもなく、それは、同様に、地方的委員会の知識人たちの追放において、承認する必要がある、マルティの手である。確かに、委員会の構成は、われわれに有名でない。その理由は、カタルニャの労働者紙は、Lロック、Pittera及びLブーラを付け加わる必要がある、一九三八年に、地方的委員会のメンバーたち、単に一三名の活動家たちの名前の名簿を公表した。彼らの存在は、少なくとも、共産党の指導部が、何から何まですっかりひっくり返さなかったことを指示する。しかし、同じカタルニャの労働者紙によって公表された、統計は、地方的委員会(サンプルの五六%)のため、要求された社会的構成において、労働者階級の増大した重要性を明らかにさせる。Pコンボの後、Fコール François Four と Lトルカティスは、地方的指導部から除名された。Aマルティの影響の下に、党は、ピレネーゾリアンタール県において、幻想的な役割のため、労働者の基礎について後退した。しかし、Rボッシュ Raymond Bossus の、そしてAマルティの二重の責任の下に置かれた、ピレネーゾリアンタール県の共産党地方の特別の協議会は、戦路上のあるいは戦術上のいかなる変化を生ぜしめなかった。当の法則は、社会党員たちで、優先権を持つ、しかし、あらゆる『民主主義者たち』に広げられた、連合のままであった。一九三九年四月八日のカタルニャの労働者紙において、初めて、現れる表現、『人民の敵たち、

トロツキー主義者たち』は、単独でこの連合から除名された。トロツキー主義者たちは、彼らをファシストたちに同化されて、彼らを『行動統一を断ち切る及び民主主義的諸組織を弱めるように試みるためにピレネーヅリアンタール県において激しい活動』を繰り広げるように責めた、R・ボシユによって協議会の間、激しく態度を決められた。

『トロツキー主義者たち』に対する追跡 このひどく変わっている不機嫌は、カタルニャの情勢の特殊性において定着するため、共産党の一般的な発展から展開した。ソヴィエト同盟によって、ヨーロッパに一般的な紛争の展望において、取られた重要性は、例外的な力で、確かにかつて忘れられた、しかしフランスの社会的形成において、党の孤立が、増大しただけに一層多く激しくなった。フランス共産党のコミンテルンの別働隊の局面を再び活発させた。逆説的に、連合に対して、激しいアピールは、系譜として、コミンテルンにアピールを持っていた。この背景において、『世界的プロレタリアートの指導者、J・スターリン』によって発せられた、トロツキー主義者たちと準ずる人たちに對して追跡へのフランスの共産黨員たちの参加は、避けられなかった。急いでトロツキー主義者で資格を備えた、マルクス主義統一労働者党 P.O.U.M. が、犠牲者であった、抑止にもかかわらず、県において数一〇万人のスペインの亡命者たちの入国で、少なくとも共産党の指導者たちの観点から、イデオロギーの伝染の危険は、実在した。この危険は、彼のマルクス主義統一労働者党主義者たち *poumistes* の好感の謎を決して作らなかった、組織の、M・ビヴェールの労働者農民社会党 P.S.O.P. の、ピレネーヅリアンタール県において、影響力で更に強まった。疑いもなく、ピレネーヅリアンタール県において、労働者農民社会党は、控え目な強い政党であった。警察の部局は、その社会党を一九三九年一月に約二八〇人の加入者たち（ベルピニヤンのためにただ二人）を認めた。しかし、加入者たち、大部分プロレタリア左翼の古い活動家たちは、共和的スペインのために、重要な行動を経験した。退却紙の時、労働者農民社会党の活動家たちの献身は、模範的であった。労働者農民社会党が、単にトロツキー主義者の敵の変形であったことを説得された、ベルピニヤンのグループの活動家たちが、急いで P・コンポーの『裏切り』を告発された、悪意によってこの確信において強固になった、ピレネーヅリアン

タール県の共産党員たちは、カタルニャのピヴェール主義者たちに反対して、責任を増大した。諸事実において、第六回協議会を表明した、知識人たちについて不信は、教諭たちにあつては代表された、社会的にピヴェール主義たちの近く、教諭たちが、ピヴェール主義者たちを『トロツキー主義』の魅力に対して負けねばならなかった、恐れにおいて、その源泉を選び取った。帰路に、労働者農民社会党に反対する闘争は、Aリマルティが、ピレネーヅリアンタール県において、アルバセテ Albacete で関与した戦闘を続けて、最も辛辣な媒介物であつた、反知識人たちの強調を選び取った。一九三九年八月五日のカタルニャの労働者紙において、その労働者紙は、従つて古い勘定を払う。『それ故に、実は、ベルビニャンは、別のトロツキー主義者である。その本質的な基礎は、マルソーピヴェールの人々によつて構成される……。ピヴェール主義者―トロツキー主義者の指導者たちは、常に労働者たちの外にある……。』この悪口のキャンペーンの主な犠牲者は、Lリトルカティスであつた。気前のいい及び才能のある何でも屋等、常に活動中にこの活動家は、真つ直ぐな心を持った人間であつた。彼の訴訟は、早く知られた。人々は、一件書類に、彼の最後の、一斉検査、彼が、カタルニャの労働者紙において、毎週、公表した通知状を注いだ。彼は、一九三九年三月一三日、展開された、Aリマルティで連帯の集会のユーモアのある報告書をそこに作った。Lリトルカティスの幼稚な口調等は、当時の厳肅さに適合しない検事たちに対して現れた。マイクロフォンの故障等は、伝統破壊的なように思われた。口調の自由に対して、人々は、トロツキー主義者を見抜いた。トルカティスの演説の相対的な軽率さは、トロツキー主義者を非難した。彼は、六月初めで、除名された。この除名は、第六回地方的協議会の時、地方が、取られた議決で喜びぶことはできた、瞬間に介入した。党は、大衆的諸組織において、当の影響力を強化した。党に平行して、その第六回地方的協議会を開催した、共産主義青年同盟は、スペインの共和派たちの集団移住で、激痛を受け取つたように見えた。キャンプにおける訪問、小包の製作、亡命者たちの宿泊は、たとえ人々が、もはや一九三六年の熱狂を知るはずでなかつたなら、青少年に対して、闘争的活動の道を見出させた。

制限された強化 第六回連盟協議会の時、党の指導部を苦しめた、小型の恐慌は、逆説的に、労働総同盟において、共産党の影響力のはっきりした強化に辿り着いた。A・ソーニエールは、健康の理由のため、五月初めで、彼の職務を辞職するように彼の意図を知らせた。一九三九年五月七日、労働総同盟県連合の執行委員会は、書記長の部署に対して、P・リテラを選んだ。労働総同盟の初めての責任に対してテラの就任で、共産党は、明白に質的な先頭に躍進を作った。党に関して、もし、党の定員数の発展を測ることは、困難であるならば、党は、明白に宣伝の能力を強化した。それは、われわれを党の活動家たちの一部分の動員について情報を与える。五月に、ピレネーゾリアンタル県のユマニテ紙防衛委員会は、全国的レヴェルで、三〇番の場所（一、四五八売れた号）から一九番（一、六八八売れた号）の場所まで移った。六月に発せられた、カタルニヤの労働者紙に対して、予約講読の協力は、立派な成功を出合ったように見える。共産党の週刊紙の保護の下に、ベルビニヤンで夜間営業に組織された、二つの祝祭は、六月一日と七月九日、それぞれ二、五〇〇人と四、〇〇〇人の人々を集めたのに。購買力の防衛の場と同じように平和の防衛の場を占めて、ピレネーゾリアンタル県の共産党地方は、フランス社会党が、党の単独なパートナーで抗議する役割を任せることはできないので、五月八日、ベルビニヤンの共産協同委員会の集会を手に入れるのに到達した。五月一七日、人民戦線県委員会は、ミラドゥー Miradou の要塞で抑留された、スペイン人の及び国際的囚人たちの拘留の諸条件について、調査委員会を形成するため、集まった。参加者たちは、機会に乗じて、ストの事実として有罪の判決を受けた労働者たちの釈放を要求した、及び代議士たちの委任の体質的な延期に対して、労働者たちの反対を率直に強く訴えた。これらの宣言が、形式的ではあったが、これらの宣言は、ピレネーゾリアンタル県の共産党員たちに対して、孤立を避けるように及び将来を慎重に準備するように認めた。大量のサラリーマンたちと小自営農たちが、知っていた、戦争の危険と経済的困難の前に、人民戦線は、復活することはできた。共産党は、この復活の道具である用意ができていた。ストの諸事実のため、炭鉱労働者たちの有罪判決に反対する抗議の印に、七名の市会議員たちの辞職によって必要となった、エスカロ Escaro の補欠選

挙は、この忍耐強い戦術の合法性を指摘するようになった。五月二一日、七名の共産党の立候補者たちは、七〇の投票者たちと一一〇の登録者たちについて六五票によって、勝利に選ばれた。当時地方的情勢の比重がどうであろうと、人々はこれらの結果の上で、フランス共産党の状況が、一九三九年に、一九三八年によりに優れた、及び党のため、先頭に新しい躍進の時期が、恐らく出くわしたことを、考えるように気になる。

七月一四日の周りに 一九三九年七月一四日、バステューユの奪取の一五〇回の記念日は、カタルニャの共産党員たちのため、彼らの統一された計画が、出会った、障害物を測るように機会であった。共産党員たちは、立派に事件を祝うため、偉大な先祖の人々の遠い昔の思い出において及び一九三五年と一九三六年の儀式の近い思い出において、人民戦線のデビューで主宰した、熱意をまた火を付けるようにできる、大きな連合を引き起こすように願った。デモの組織を世話を引き受けた、人民戦線県委員会は、社会党のすべての象徴的な参加の事実から当然、単にデモを控え目な見事さを与えることはできた。しかし、もし一九三九年七月一四日が、ペルピニャンで、人民戦線で期待された復活の時期でなかったならば、七月一四日は、共産党に対して、国民史において、党の定着を再び確認するように認めた。すでに、七月八日のカタルニャの労働者紙において、ロックは、協定で定めたA・マルティ等の間、直接なつながりが、実在したことを確認した。七月一四日は、『一七八九年七月一四日、一九三九年七月一四日。大革命万歳』という属特有の見出しの下に、四つの論説は、共産党員たちのために、革命的偉業の威厳を利用するように努力した、共産党の週刊紙の特別号を出版された。そのように、一九三九年の恵まれた人々は、亡命者たちと、民衆諸クラブを人民戦線諸委員会と、ジャコバンたちを共産党員たちと比べられた。しかしながら、この直接なつながりは、別のつながり、ソヴィエト人と対立していなかった。『ポリシエヴィキたちは、プロレタリア革命のジャコバンたちである』という、レーニンのこの決まり文句は、フランスの共産主義の二つの根源を妥協するように認めた。カタルニャの労働者紙が、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党を置いた、時間自体において、党の活動家たちは、ソ、連邦ポリシエヴィキ党史を売るために彼らの活動の重要な役割を当

てた。

追放？ 七月に連合政策によって蒙られた失敗、地方的祝祭のその前の年月よりもっと弱い交際は、独ソ協定が、突然中断した、及びLロツキールカティスの追放が、デビューをマークした、地方に対して内部の危機の原因であった。地方的特別協議会以来、『トロツキー主義の害虫』に反対する攻撃は、止まらなかった、しかし大抵の場合、一般的な性格を取った。一九三九年八月五日のカタルニヤの労働者紙において、Aマルティの激しい攻撃文書の後に、彼が、ピヴェール主義者たちに対して、六月以来党の停滞の責任を担った、Lロツクの論説は、出版された。彼は、書いた。『地方のアピールに対して返答しなかった、諸支部がある。ある支部は、われわれの敵たちによって次第に弱らせた。……ファシストたちと彼らのトロツキー主義の味方たちの行動のセンターは、ベルビニヤンである。』人々は、人々が、弱点を知っている、グループに対して、与えられた重要性の前に、夢想家のままである。疑いもなく、内部のむしろ外部の原因によって、失望を説明することは、もっと容易になる。しかし、人々は、反トロツキー主義のキャンペーンの推進において、試練の前に共産党員たちを接合するような、及び指導部が、信頼しなかった、人々を除名するようなやり方を見せずにはいられない。それまで、重要な責任を行使した、二人の活動家たちに対して、それは、ケースであった。Aマルティの参加で、八月初めで支部の協議会の開催は、われわれを、八月六日、彼の面と向かいあつて集まった、地方的委員会の後、ピレネーゾリアンタール県の共産党員たちが、異常である諸事件に対して予期した、印象において確認する。その結果、Aマルティは、独ソ協定の予測された結論をよく知っていたことをそれから結論することを、単に難関である。しかし、このケースにおいて、彼は、明日の困難は、作られる動機を地方の責任者たちに対して知らせるように用心した。

独ソ協定のシヨック もし知らせが、ピレネーゾリアンタール県の共産党員たちを不意を襲つたならば、八月二三日、独ソ協定の締結の知らせは、彼らを抵抗する用意のできたように見付けた。八月二六日は、カタルニヤの労働者紙の特別号を出版させた。Lロツクは、そこで、世界の平和を脅やかすどころか、独ソ協定は、ドイツの弱さの表現であつたこ

とを証明するように努力した。同じ時間において、大型カメラに七、〇〇〇部で及び小型カメラに数一、〇〇〇部で印刷された、びらは、ジュネーヴの社会党新聞の欄においてなされた、独ソ協定に対して有利な、分析を及びユマニテ紙のトスリワール紙の中断に反対して抗議する、一九三九年八月二六日の共産党の議会グループの新聞のコミュニケーションを取り戻した。これらの宣伝の構成要素は、単に非常に不完全なやり方で、その要素の名宛人たちに到達した。八月二七日、中断された、カタルニヤの労働者紙は、一部分は差し押さえを受けた二六日の彼の号を見た。びらに関して、びらは、警察の部局の気掛かりによって、びらの最終ゲラと同様に、印刷者にあつてから洩れ出た。リヴザルトの共産党細胞は、八月二六日から二七日までの夜において、党の新聞の差し押さえの知らせから、その指導者たちが作製した、びらを配るのに到達した、もっと多くの幸運を持っていた。独ソ協定が、世界の平和を仕えたことを説明する気になった後、E「ダルデンヌとA「ラコストAndré Lacosteは、明晰な、彼らが、親切なしに、しかし時に含まれるマゾヒニズムを欠けられないこの調書によって、見え出すように見えたことを結論した。一九三九年九月一日の彼の号において、社会党員紙は、この孤立に対して、あらゆる彼の深遠さを与えた。ソ連邦の行動に反対して、バージュBagesの共産党市長、ファブレガFabregasの宣言と並んで、F「ベルタFernand Bertaの論説は、フランス社会党の地位において、共産党の活動家たちを引き付けるように努力した。事実は、この解雇の企ては、多数のライバルで引き起こされたファブレガの態度よりもっとゴシップ欄で出合ったように思われない。最初の時間において、加入者たちと活動家たちは、彼らを彼らの指導者たちが提供した、説明を受け入れたように見えた。共産党に荒れ狂う、暴風雨は、細胞においてある混乱を引き起こす。敵対する世論の圧力に従わせられた、党の加入者たちと活動家たちは、狼狽させる。最も生一本で頑固な人たちは、抵抗する。最も気の小さい人たちは、よりよい日々を期待しながら、忘れさせるように試みる。しかしながら、独ソ協定の後、ピレネーゾレアンタル県の共産党地方の内部に、僅かの要求された離脱の前に、事柄は、確実である。ファブレガは、ソヴェエトの態度の彼の非難において、テクTechの共産党の選挙当選者たちによってのみ追い付かれる。ほっとした気持

のように多数の活動家たちによって、これらの鉛の日々の後、体験された、動員と戦争は、この不確実の時期に終わらせた。動員された、党の幹部たちと活動家たちは、彼らの構成単位を接合した。二重に解体されたとはいえ、共産党の生活は、続けたように見える。その理由は、一九三九年九月一四日で、共産党の本部とカタルニャの労働者紙の編集部は、開かれたままであった。確かに、物質的に、共産党は、なお合法的とはいえ、単に重要な日で僅かの活動の可能性を持っていた。指導者たちと活動家たちは、ピレネーズリアンタール県において、非合法状態へ移るようには考へたように思われない。兵役免除になった、Lロックは、敗北主義の宣伝のため、九月二五日、逮捕されるであらう。

陰の党の方に 九月二六日、共産党の責任者たちと活動家たちを、永続するため、活動で単に非合法であるのを余儀なくさせながら、フランス共産党の解散の政令は、当時の厄介のその先に、フランス共産党の生存を保証した。フランス共産党は、九月末で及び一〇月半ばで、最後の支持の主要点を失った。すなわち、労働者及び農民ブロックという市当局と労働総同盟県連合。その指導部を保証した、共産党員たちは、ロシアの侵略に反対する抗議で、サンディカリスムの試金石を作るように、全国的に労働総同盟によって取られた議決に従うように拒否した。間もなく排除された、共産党員たちは、社会党員たちの執行委員会のメンバーたちによって取り替えられた。この議決に戻るように拒否した、諸労働組合は、解散された。ミラス等の労働者及び農民ブロックという市当局に関して、市当局は、一〇月一九日、特別の代表団たちによって、一時しのぎの手段を取り替えられた、そして共産党の選挙当選者たちの失権の発端となった。彼らを叩く、抑止に直面して、孤立された共産党員たちは、色々なやり方で反応する。ある人々は、ある成功で、フランス共産党とソ連邦によって取られた態度を公に防衛し続ける。別の人々は、接触を保持しながら、批判に非難的とならないために言わないように選ぶ。シエレの郡において、副知事は、一九四〇年初めに、『古い共産党員たちは、公にすべての示威行動で、さらには……公の場所をしばしば行くように差し控える』ことを観察する。疑い深い、彼は、関与した官公吏たちの問題になる、『古い共産党員たちは、昨年の八月二四日の諸事件（独ソ協定）以来、彼らが、原理を扱った、共産党の指導者

たちと手を切るように可能性を捕らえなかったことを、人々は、驚くことができる。世論は、指導者たちと活動家たちの間に固執する、思想と行動の共同体の取り決められたデモのように彼らの沈黙を解釈する』ことを、確認する。そのように、旧共産党員たちは、一九三九年末で、彼らの古い約束を放棄するのを除いて、すぐれて怪しいことである。実際、一九四〇年一月二〇日、発布された、共産党の選挙当選者たちの失権法は、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党の選挙当選者たちの全体は、意見を変えるように拒否したことを、証明する。一九三九年一〇月から、ベルピニャンとその郊外の外に、地方的指導部は、配置される。J=ポレーレス Joseph Baurès の主導権で召集された、二人の別の地方局のメンバーたちと二人のリヴザルトの年配の活動家たちが、出席した、集会は、参加者たちに対して、現状を統括するように及び全国的指導部と関係のいない場合に、非合法の県の指導部の集団の存在を確認するように認める。軍隊の、彼らのメンバーたちは、彼らが、固定した任務に身を捧げることはできなかった。それは、一九三九年末でと一九四〇年初めで、中央委員会と関係して、ベルピニャンで党を生活をさせるように責任を引き受けたように見える、テラー、ポック Podéであった。孤立された活動家たちの忠実さにおいて同様に組織のこの萌芽において、党は、生活していた。党の味方たちの及び世論の撤回は、党を倒すことはできなかった。人民戦線の日向で、反ファシズムの党を建設した、人々(男女たち)に対して、闘争は、続いた。彼らは、星のない空の下に、夜の果てに長い前進を始めた。^(一九)

結 論

共和党(より大規模な共産党)の前衛

増大の動揺 第一次世界大戦から出た時に、ピレネー・ゾリアンタール県において、よみがえる社会党の基礎について、

若い共産党を創設した、怒りとして若い人々は、自分を社会主義の純粋な根源に戻ると主張した。同じ熱狂において、世紀の初めで、カタルニャの田舎において晴れ晴れとした、ゲード主義の社会主義的伝統、及びヨーロッパの東で、ボリシェヴィキたちが建てた、新しい世界における信念を混同して、若い人々は、古いものと新しいものと和解しようと努力した。接木を拒否して、彼らは、成功した総合から生まれる、調和を願った。もし幻惑が、少しも欠けていなかったならば、共産党に対して、リヴザルトの農業労働者たち―小所有者たちが、もたらすはずであった、欠陥なしで支持は、党の最初の年月の間、改革者として同様に相続者として、党を顔出しするように認めた。党が、A「マルティの釈放のために繰り広げた、激しいキャンペーンは、農村も都市も、民衆的諸階層の意識において、有利な反響を見付けた。同様に、創設者たちの一部は、フランス社会党に立ち去ったとはいえ、共産党は、一九二四年末で、今後数える必要があった、勢力になった。党の定員数の動きは、党を明白に確認する。全国的に、一九二四年は、一九二二年以来、自由な落下として共産党の定員数の軽い再上昇に対応するのに、その定員数は、ピレネー・リリアンタル県において、当時彼らの出発のレヴェルを追い抜く。ぶどう栽培の村落の古いゲード主義者の背景について、A「マルティのカリスマに付け加わった、火の世代の若い人間たちの行動主義は、素晴らしい成果をもたらした。党の周りに、大衆的組織のサークルの発展によって表現された、この飛躍は、ボリシェヴィキ化によつてはつきりと阻止された。カタルニャの共産党員たちは、最もよく、自分たちの中に閉じ込められた、あるいは党を離れた。企業細胞の基礎について党を組織するような義務は、余り工業化されなかつた県において、活動家たちを狼狽し果てた。キャンペーンの心性の状態に余り適用されなかつた、スローガンは、大量のカタルニャの労働者たちと農民たちの関心を引かなかつた。人目を引かない闘士の活動の発展は、一九二七年に、ゲード主義の独特な腐植土において、共産党の影響力を定着するのを貢献した。すなわち、農業労働者たち―分割地の小所有者たち。しかし、共産党の聴衆は、脆弱な戦術的な基礎に根拠を置いた。統一された労働取引所の創設は、県庁の部局、及び経営者の組織の注意を引き付けた。『共産主義、ここに敵がある！』という、A「サローの有名な文句が、暴露し

た、戦闘的な反共主義の全国的背景において、力の試練は、避けられなかった。ある小競り合いの後、対立は、一九二八年に、共産党員たちによって選ばれた場について、リヴザルトで起こった。リヴザルトの農業労働者たちのストの失敗は、しかし、党の影響力を弱めるように見えなかった。一九二八年の国民議会議員選挙の第一回投票は、党に対して、成功であった。しかし、リヴザルトで、大衆的諸組織の初めてのサークルは、一掃された。統一労働総同盟に加入された諸労働組合は、敗北に抵抗しなかった。カタルニヤの民衆的諸階層の深い確信を不快にした、コミンテルンによって押し付けられた、『階級対階級』戦術は、経営者とカタルニヤの右翼によって発せられた、共産党の解体の企てを完成しようとした。リヴザルトで、共産党の地区が、党の威厳を修復するように大きな労苦で試みたのに、Fペリシエは、一九二九年初めで、ベルピニヤンの地区の指導者たちの追放を執行した。共産党は、ピレネーヅリアンタール県において、あらゆる党の態度を失った。リヴザルトで、一九二九年の市町村議会議員選挙の時、共産党の名簿は、はつきりと穏和な名簿によって敗北された。共産党のリヴザルトの目的は、党から領土的基礎を奪った、そして田舎のゲード主義者の伝統で、関係を断ち切った。一九三〇年まで続けられた、追放は、追放が、共産党を減らしたよりもっと少なく神話的な規律を強化した。すなわち、口頭の行動主義と失望の間に動揺する幾つかの細胞。もし最初の日々のある加入者たちが、党に留まったならば、最初の役割は、今後、加入が、もっと最近であった、活動家たちによって保持していようとしていた。特に、ベルピニヤンで、小さくされた地区の指導部を引き受けた、JギセとMリュ。社会主義的あるいは共和的伝統のために過度の尊敬なしで、経営者の公訴によって色々な職業を営むのに追い込まれた、新しい来た人々は、当時社会的諸闘争とサンディカリズムに対して、優先権を与える。統一労働総同盟と失業者諸委員会から、実は、新しい来た人々は、ピレネーヅリアンタール県において、共産党の組織の見せ掛けを建設し直す。しかし、一九三二年の国民議会議員選挙から、全国的レヴェルよりピレネーヅリアンタール県においてもっとマークされた、共産党のために容赦ない選挙の失敗は、新しい指導部の内部自体で、『階級対階級』戦術の再問題視を、明らかにする。Lロックは、社会党の立候補者について、

第二回投票で共産党の票の移動を褒めそやす。民衆の心性の深い構造のゲームは、政治的路線を方向を変えるのに到達する。ロックは、除名されないであろう。カタルニャの県において、左翼諸党の間に、統一された実践への復帰は、画かれる。一九三四年二月の諸事件は、党の発展を終える。一九三四年八月に、まず第一に、アムステルダム・ブレイエル運動を横切つて、次いで、彼らの固有な名前に、共産党のピレネーヅリアンタール県の地方を形成する、カタルニャの共産党員たちは、再び見出された行動統一の松明を奪い取る。分裂された社会党に直面して、共産党は、人民連合のリーダーとして認められるし、田舎のゲード主義の社会主義的伝統のばかりではなく、あらゆる共和的運動の相続者の立場に自分を見出す。共産党員たちは、ルシヨンに共和党の新しい蒸し返えしの先端部門になる。この注目すべき改革は、共産党の及び党の影響の注目すべき発展を引き起こす。もし最もしつかりした共産党諸組織が、しばしばフランス労働者党の古い諸支部を突き合わせるならば、ぶどう栽培者の農業労働者たちと小所有者たちは、実際、共産党の活動家たちの重要な役割を提供し続ける。一九三六年六月―七月のストに従う、農業労働組合の増加は、増加を維持することに貢献する。とりわけ、共産党のイデオロギーを透さないように留まった一九三〇年代の初めまで、あらゆる直ぐ前の時期と一緒に、ペルピニャンという断絶は、党に対して、党の最も立派な成功を呈する。共産党と社会党によつて獲得された結果の間に隔たりを短くなるように見える、一九三六年の国民議會議員選挙は、ペルピニャンの選挙区において、彼の社会党の敵について、共産党の立候補者、L'ロックに対して、利益を与える。一九三七年に、補欠市町村議會議員選挙は、二人の共産党員たちによつて、ペルピニャンの市会に入るような機会である。ある六〇〇人の加入者たちに支えられて、ペルピニャンの支部は、それまで、ルシヨンに党の組織について、農村細胞を行使した、全的な支配を終わらせる。農業労働者たちと小所有者たちの党であるように止めないで、共産党は、ピレネーヅリアンタール県における一九三六年から、同様に工業労働者たちと官公吏たちの党になった。党の活動家たち、党の宣伝（カタルニャの労働者紙）、人民戦線党になった、共産党が、活気づける、多数の大衆的組織によつて増やされた党の効果は、統一された運動の最高値に留まるように努力

する。スペインの共和派たちの側に身体と精神を積極的に関与した、共産党は、カタルニャの民衆運動に対して、労働者たち、小農民たち、小官吏たち、職人たちと小商人たちのこの民衆に対して、共産党が、当時党自体で作られる、イメージを提供する。Aリマルティは、民衆運動のイメージで同様に党のイメージで身体を与える。羽目を外した抒情味への演説家、しかし政治的諸問題の鋭い分析家、Aリマルティは、カタルニャの歴史において、彼の演説の同様に彼の行為の正統化を汲み取る、一九三七年から、断念と危険に直面して、共産党の活動家たちが、増やす、統一に対して、アピールを覆うように止めない。しかし、どれほど言葉は、不思議であろうと、言葉は、力なしである。すでに、ピレネーゾリアンタール県において、決して人民戦線の利害関係者ではなかった、急進党員たちは、利害関係者を放棄した。社会党は、民衆の感受性を正面から衝突しないで、秋から、共産党が、人民戦線綱領を防衛するため及び共和的スペインを救うため、社会党を発した、社会党の返事が、ますます時間稼ぎのために引き延ばさせた、口先だけで、しかし悲痛なアピールで、統一されたままであった。孤立への復帰の費用を負担するようにひどく恐れて、共産党員たちは、人民戦線の幽霊にすがり付いた。退却紙が、提供した、戦争の恐怖の光景は、恐怖を正しいと認めるように見えた。しかし、ゲームが、なされた。独ソ協定の刃が、倒れた時、共産党員たちは、自分たちの中に閉じ込めるように始めた。しかし、徹底的に、統一された実践は、かつて独ソ協定の調印によって彼らの頭に猛り狂った嵐を通して、再び民衆運動の統一者たちになるため、共産党員たちを資格を与えた。フランスの敗北の後、ピレネーゾリアンタール県において、抵抗が、組織し始めた時、共産党員たちは、抵抗に最初の役割を選び取った。党の活動家たち、最後の時間の除名された者たちあるいは共産主義青年同盟のメンバーたちは、もうろうとした状態において多数で通過した。ある人々は、戻らなかった。別の人々は、彼らの身体と彼らの精神において傷付けられた。しかし、自由のために戦闘において掛かり合わなかった。人民戦線の世代の共産党の活動家たちは、稀なことであった。統一と反ファシズムの風上に種をまかれた穀粒は、発芽した。そして、人々は、共産党の決定によって納得された、ペルピニャンのピヴェール主義のグループの見解において、一番多くの

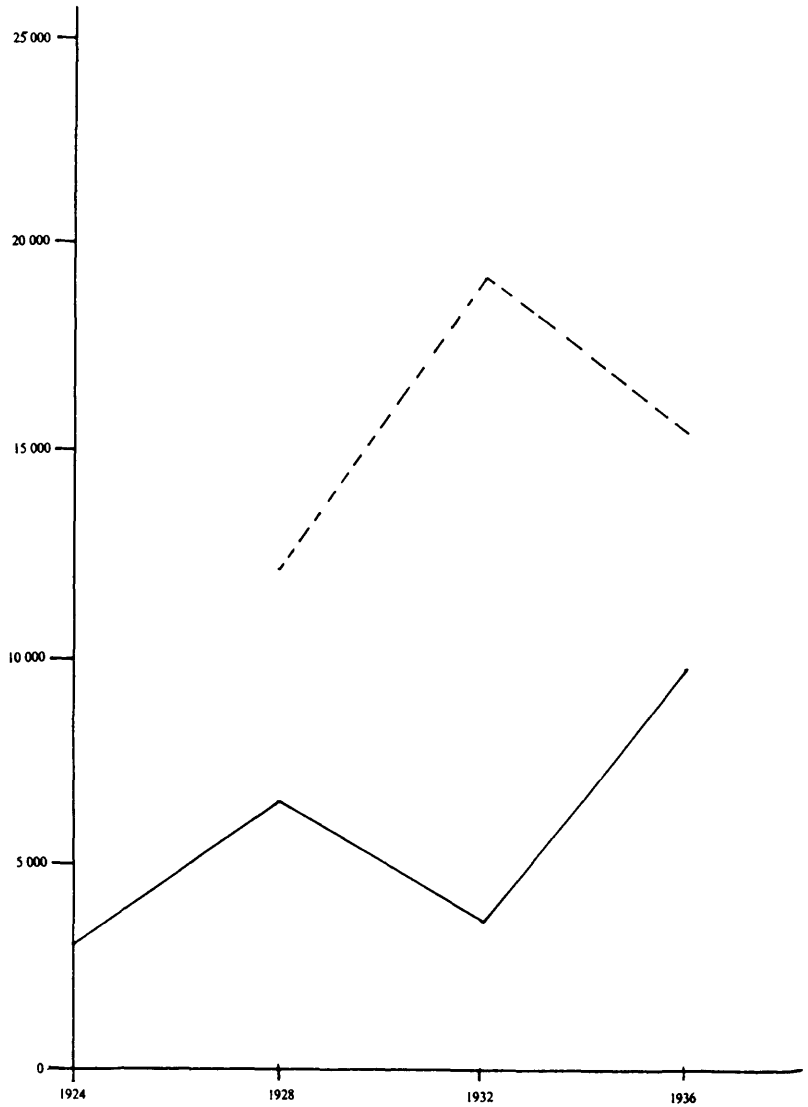
メンバーたちを、非合法の闘争において、党の地位を接合するように見えた。

統一された神話 係数は、この分析の全体から生じる。ピレネー・ゾリアンタール県において、共産党の行動が、ゲド主義の社会主義的及び共和的伝統の延期において、記録する時、その行動は、成功で飾られる。逆に、その行動が、カタルニャの労働運動史は、重さをなす、比重を考慮に入れることに拒否する時、その行動は、失敗に走る。確かに、必要な変更を加えて、全国的レヴェルで、大雑把に同様である。しかし、ルシヨンに、民衆運動のセメントを構成する、統一された神秘学は、変化を誇張する。一九二四年に、もし国民議会議員選挙の結果が、勝れないならば、共産党は、党の定員数を、一九二〇年に社会党の定員数より優れたレヴェルを到着するように見える。一九二八年に、この前衛の役割は、リヴザルトのストにおいて、選挙民によって強く感じられた、共産党が収まる、場所によって確認される。すでに党のセクト主義の演説にもかかわらず、共産党は、国民議会議員選挙の第一回投票で、党の票を二倍にするよりもっと作る。第二回投票で、選挙民と党の加入者たちの一部分が、『階級対階級』戦術の具体的な意義を発見する時、撤回は、集団的になる。続いて起こる、国政選挙、そして特に一九三二年の国民議会議員選挙は、党の旧選挙人たちが、もはや見当が付かない、党の崩壊をマークする。そんなに、党の言葉は、その選挙の深い確信で、不安定な立場にある。一九三四年から、統一された政策への復帰は、再び共和党の前衛、すなわち、党を上部組織でもたらず。初めて、党は、党の活動家たちの数を、そして党の立候補者たちが、国政選挙に対して手に入れる、票の数を平行して増加するように見える。人民戦線の党は、立派なことである。この一般的な現象は、幾つかの説明を承認する。ある説明は、ピレネー・ゾリアンタール県において、党の歴史に及び性格に切望している。もっと一般的な、別の説明は、カタルニャの県の経済的、社会的及び政治的獨創性に切望している。まず第一に、少なくとも一九二九年まで、一九一四年以前の社会党と若い共産党の間に存在した、例外的な継続を強調することは相応しい。一部分は、一九三〇年代の初めに壊された、継続は、完全に継続ではない。そして、一九三四年の転換点以来、復帰は、断ち切られた糸を再び始めるようになる。もし共産党が、共和的運動の提示

された要素として現れることはできるならば、それは、共産党が、左翼の田舎の腐植土において、党の根を張ることである。目立つように一番多く共産党の活動家たちは、一般的に言つて、農村の生まれである。一九三〇年代の時期の間、ペルピニヤンの地区の指導者たち、リエとギセは、プリテラ、AジャンドルあるいはLロックよりもっと決まりから忘れられない。人々が、赤色あるいは白色である、急進党的なあるいは社会党的な小所有者たちと農業労働者たちの息子たちの、この村落の社会において生まれた、ほとんどすべての人々は、『共和的』家族の産である。すべての人々は、確かに、人々が、階級闘争を知っている、しかし、階級闘争が、しばしば市役所の征服あるいは協同組合の配置を経験する、この雰囲気において成人された。疑いもなく、そこで、実は、ピレネー・ゾリアンタール県において、共産党の行動の獨創性の根源は、見出す必要がある。北カタルニヤの労働運動のイデオロギーは、村落の農業労働者たち——小所有者たちの経験から湧き起こる、イデオロギーによって強くマークされる。労働者階級は、ピレネー・ゾリアンタール県において少数派であるばかりでなく、労働者階級は、その多数派において古風である。大抵の場合、職人の枠内において働く、北カタルニヤの労働者は、二つあるいは三つの例外を除けば、大きな工業企業を知らない。従つて、すべて当然、実は、その労働者は、自分の責任で、彼が、半分だけ所属する、農村社会の価値を取り戻す。さて、これらの価値は、労働者たちの利害と矛盾して入らない。一九世紀の後半の間に焦点を合わせられた、価値は、社会的平等で、その得意な話題を作った、小農民の経済的解放の意思を反映する。彼らの目的に到達するため、農業労働者たちと小農民たちは、労働組合と協同組合を組織して、実践的な、そして順番に、共和国において及び社会主義において、彼らの平等主義の標準を体現して、イデオロギー的な武器を与えられる。この背景において、ある大きなストの時期の外に、特に市町村議会議員の、選挙は、同時に、勝利の場合に、労働者と農民諸組織に対して、開花の最善の諸条件を提供するような、そして暴力を嫌う、社会において民衆の流れに有利な力関係を樹立するような手段である。これらの功利主義的局面のこの先に、小農民たちと農業労働者たちによってミラス等の市役所の征服は、カタルニヤの農村の考えを支える、統一された社会の夢を具体化する。

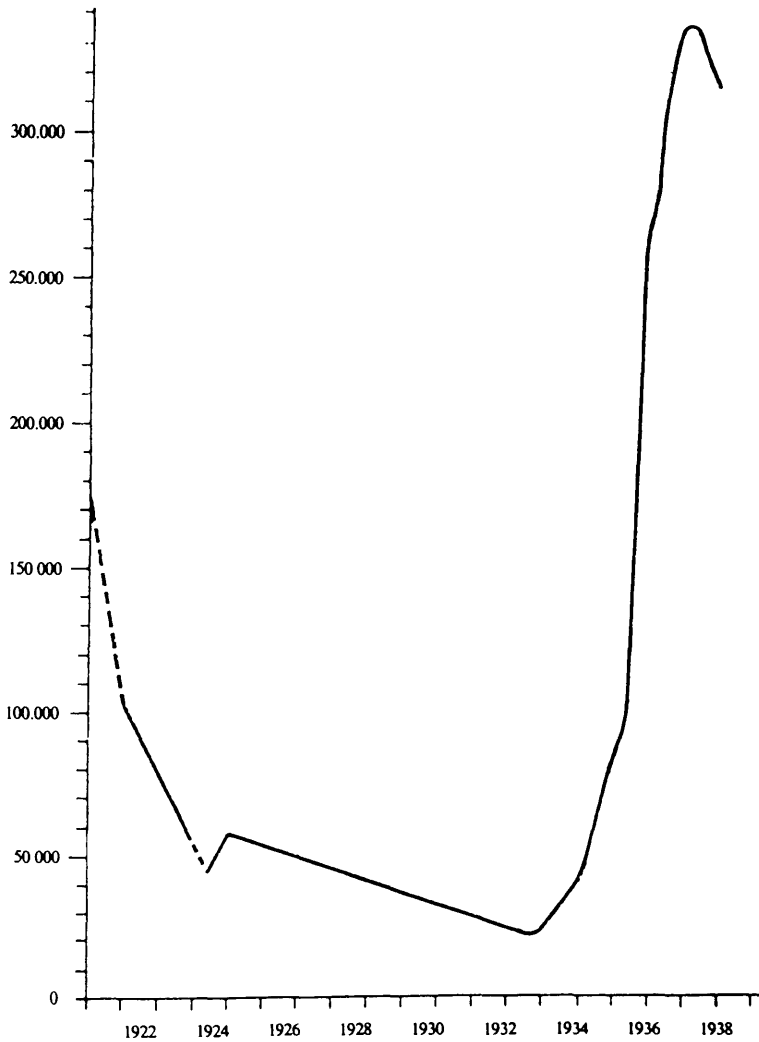
村落において、階級的諸關係は、村の社交性において、祝祭の空間を解決される。人々が、各々の古い敵のために尊敬することは、起こる。そして、赤色たちと白色たちの間に区別が、金持ちたちと貧乏人たちの間に区別よりもっと確認される時、お互いの間、区別の微妙な路線は、家族の内に移る。同じ調和した共同体において、毎日、頻繁に接触する、及び複雑な諸關係の多様性を維持する、村落のあらゆる住民たちを結び付けること、ここに、民衆の演説が、左翼諸党に対して、統一された諸スローガンに表す、意識のない集団の役割がある。人々は、ここで、ピレネーゾリアンタール県において、『階級対階級』戦術の絶対的不適合を推し測る。しかし、人々は、人民戦線の時期の間、特に、スペイン戦争において、人民戦線が、カタルニャの参照において、国境なしで統一された演説の機会を見出した時、共産党の成功の根をよりよく捕らえた。人民戦線の非妥協的な獨創性の感情は、ピレネーゾリアンタール県の住民において、敏捷であったように見える。しかしながら、感情は、単に政治的演説において、本質的に感動的な形態の下に表面に現れ出た。人々は、当時、Aリマルティの釈放のためにキャンペーンの時と同様に、『カタルニャの寛大さ』で話した。あるいは、一般性において突発された諸事件のために、人々は、民族的連帯を前面に押し出した。バルセロナについて奇襲のスペインの紛争は、カタルニャ状態を舞台の前面について立ち戻るように見えた。左翼の内部で、共産党は、その主な媒介物であった。疑いもなく、カタルニャの価値への共産党のアピールの機能は、二つのフランスの及びスペインの人民戦線の間、もっと大きな、その理由は、言葉そのままでの意味で、親密な、連帯を保証することであった。しかし、この機能は、『國際的ファシズムの恐ろしい工作員たち』を除いて、フランスのカタルニャの民衆へのアピールが、『カタルニャの共同体』に、ピレネーゾリアンタール県のあらゆる住民を結び付けるため、階級的諸關係を越えるに至った時、一旦、ピレネーゾリアンタール県の民衆運動の内に統一する、別の機能を伴った。そのように、カタルニャ状態は、村の民主主義の夢の役割である、統一された幻想に根拠を与えるように可能にする。彼らのカタルニャの祖国に対して、フィゲール、ロック、マルティの熱意を横切つて、共産黨員たちが、ピレネーゾリアンタール県の住民で作り上げることができた、深い諸關係は、

表現された。社会黨員たちよりもっと、共産黨員たちは、一九三九年初めで、世界のヴィジョンと密着していた。共産黨員たちのソ同盟への愛着、すなわち、平等主義は、偉大な役割を演ずるように見えた、しかし人民戦線以来、直ぐフランスに適用されるはずであるように見えなかった、発展のモデルへの愛着は、逆に、彼らの聴衆を害したように思われない。ソ連邦友の会によって最も人を惹き付ける彼らの形態の下に提出された、ソ連邦は、統一された神話で参加した。コミンテルンの周りに、世界のプロレタリアートの統一は、共和国を防衛するために統一で、ピレネーヅリアンタール県において、矛盾でなかった。共産黨員たちは、ピレネーヅリアンタール県の政治的世界において、単に共産党の前衛になるため、大衆の統一された意思に順応しながら、恵まれた地位を作り上げられた。多数の年月の後に、『あらゆる真の共和派たちの団結万歳』という、G「マルシェ(主流派集権主義的かつ権威主義的な党指導部)」によって、一九八一年三月三日、ベルピニャンで催された集会の終わりに大声で叫びながら、A「トゥールネは、この状態の恒久不変を有名にするはずであつた。」⁽¹⁰⁾

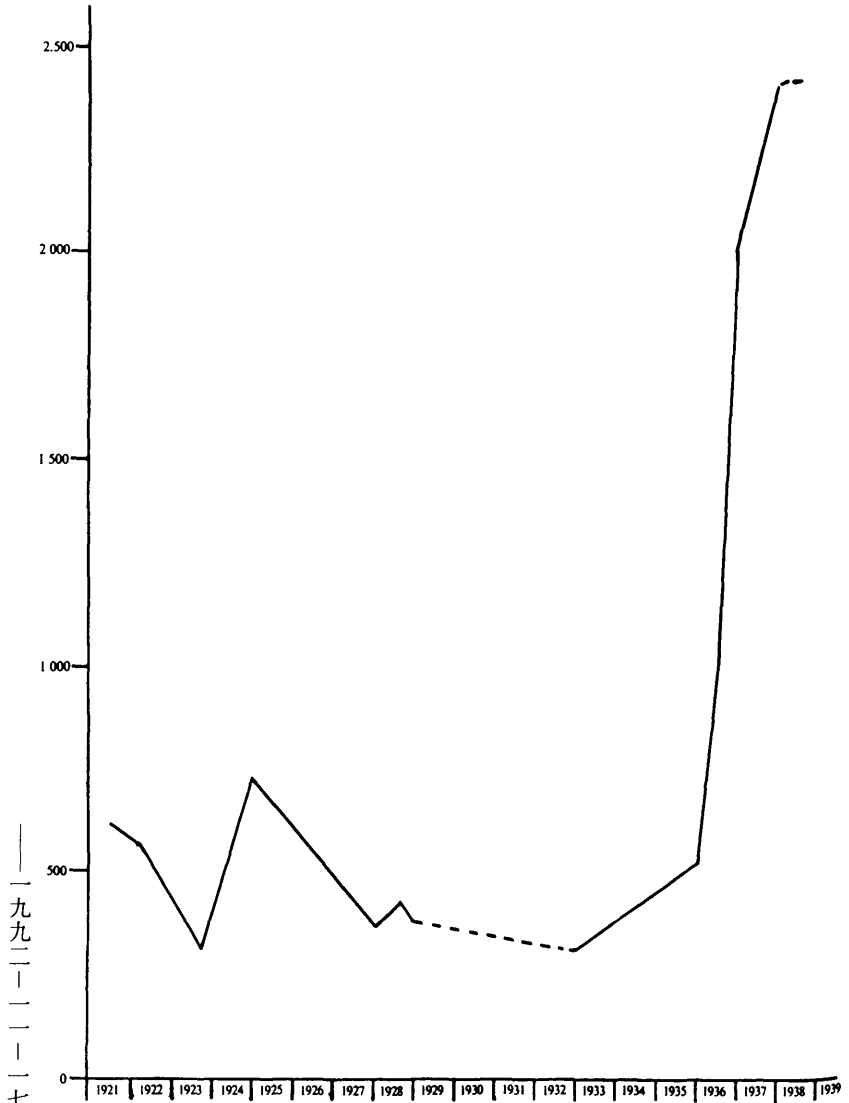


1924-1936年国民議会議員選挙における共産党員たち
及び社会党員たちの投票⁽¹¹⁾

— 共産党
--- フランス社会党



1920年から1939年まで共産党の定員数の動き⁽¹²⁾
(アニー=クリエジェル：パンとばら，201頁によれば)



1921-1938年ピレネー=オリアンタル県における共産党の定員数の進展⁽¹³⁾

一九九二一一一七、完稿

- (十) Cf. M. Cadé, o. c., pp. 256-275. M=カデは、かつて指導教官 R=トランペ教授 Mile Professeur Rolande Trampe (トゥールーズ大学) であった。筆者は、一度文通で知り合った。Cf. Ib., p. 6. 『一九三六年と一九三七年にピレネーゾリアンタール県における共産党の定員数の進行』、『一九三七—一九三九年ピレネーゾリアンタール県におけるフランス共産党の定着(全県における共産党の細胞と共産主義青年同盟のサークル(ベルビニヤン市細胞とサークルの重要なグループ)は、簇生されていた)』 Cf. Ib., pp. 264, 265.
- (十一) Cf. Ib., pp. 275-294. 『一九三七—三八年にフランス共産党の活動家たちの社会学』、『ピレネーゾリアンタール県の共産党の地方の指導者たち 一九三七—三八年、書記局—地方局—地方的委員会(①名前、P=テラ、誕生日、一九〇八・一一・二八、職業、会計係、党における責任と選挙の任期、書記長、生まれの部門、ミラス、②L=ロック、一九〇五・一〇・一六、酒倉労働者、宣伝への書記、エルヌの市議員、エルヌ次いでベルビニヤン、③F=マルティ、一九〇四・一一・二四、教諭、組織への書記、ミラス、④A=ジャンドル、一八九六・三・二七、料理店主、地方局、ミラスの市長助役、ベルビニヤン、⑤J=ホーレス、一八九九・一一・二二、土方、地方局、ベルビニヤン、⑥G=ガイヤック Georges Gallac 一九〇六・五・一五、鉄道労働者、地方的会計係、ベルビニヤン、⑦F=ジュリ、一九〇〇・九・二四、豚肉商労働者、地方局、ベルビニヤン市議員、ベルビニヤン、⑧L=プーラ、一九〇九・九・六、市役所サラリーマン、地方局、ベルビニヤン、⑨A=ソーニエール、一九〇〇、建物労働者、地方局、労働総同盟県連合書記、ベルビニヤン、⑩R=トレイユ、一九一〇・一〇・七、石版リトグラフ画家労働者、地方局、国際的赤色援助隊の県会計係、ベルビニヤン、⑪R=ボンス Richard Ponce 約二二歳、サラリーマン、地方局、共産主義青年同盟書記、ベルビニヤン、⑫F=バレル François Barère 自動車修理工、地方的委員会、アルル/テク、⑬M=バレル Marcel Barère 一九〇五・一一・四、ぶどう栽培者、地方的委員会、エスタジェル、市長助役、エスタジェル、⑭F=バートル Fernand Barère?、暖房に組立工、地方的委員会、ベルビニヤン、⑮R=ホエル Raymond Boher 一九〇〇、地方的委員会、サン=ローラン=サランク、⑯F=カヴァイエ François Cavaliez 一九〇五・一一・二四、鉄道労働者、地方的委員会、ベルビニヤン、⑰E=ダルデンス、運転手、地方的委員会、リヴザルト、⑱M=アティエル、一九〇四・一一・二二、郵便局サラリーマンぶどう栽培者、地方的委員会、ベルビニヤン市議員、ベルビニヤン、⑲A=カネ Albert Canet 一九〇一・一一・一四、小商人、地方的委員会、ミラス市議員、ミラス次いでエスタジェル、⑳D=コンボー、一八九三・三・一、教諭、地方的委員会、ソ連邦友の会県の書記、ベルビニヤン、㉑C=ドリアク Célestin Dauch 地方的委員会、シエルダニユ、㉒A=エステーヴ André Estève?、農民、小商人、地方的委員会、オレット Olette 地方的委員会、シエルダニユ、一九〇六・六・一七、鉄道労働者、市議員次いでヴィルフランシユドゥ=コンフラン Vilefranche-de-Confent の市長、ブラド、㉓J=モーリス Jean Mors 一九一四・一〇・一九、牛乳屋、地方的委員会、国際的赤色援助隊県の書記、ベルビニヤン、㉔F=ブール、一八九八、教諭、地方的委

員会、ブラド、②⑥ L'Émancipation Louis Muxart' 一九〇三・五・二、庭師、地方的委員会、コート ヴェルメイユ、②⑦ A. H. シカール Albert Sicart' 一九〇九・一一・一六、建物の労働者、地方的委員会、ユミニテ紙防衛委員会責任者、ヘルビニャン、②⑧ J. ヒテリス Julien Ferris' 一九〇九・七・七、ぶどう栽培者、地方的委員会、ヘルビニャン、②⑨ L'Étortオルカティス、教諭、地方的委員会、ヘルビニャン、③⑩ M. トリケール Marcel Trinquères' ?、農業労働者、地方的委員会、ヘルビニャン）、『一九三七—三八年にフランス共産党の地方的指導者たちの社会学』、『一九三七—一九三八年共産党の活動家たちと指導者たちの社会学—地理的代表権』 Cf. Ib., pp. 278, 282-284. Cf. Annie Kriegel, Les Communistes français, essai d'éthnographie politique, Paris, Éditions du Seuil, 1968, 320 p., Jacques Girault, Sur l'implantation du Parti communiste français dans l'entre-deux-guerres, Paris, Éditions sociales, 1977, 344 p. (拙稿「フランス人民戦線研究の新動向」『法学論集』一五卷一号、一九七九年一〇月、特に三六一—三八頁参照) Antoine Prost, La C. G. T. à l'époque du Front populaire 1934-1939. Essai de description numérique, Paris, Cahiers de la FNSP, Librairie Armand Colin, 1964, 242 p., etc.

(八) Cf. Ib., pp. 295-307. Cf. Grando René, Queralt Jacques, Febres Xavier, Vous avez la mémoire courte, Perpignan, Editions du Chiment, 1981, J. P. Barthomet, «Le P. C. F. et les réfugiés d'Espagne en 1939», *Le Mouvement social*, n° 103, avril-juin 1978, etc.

(九) Cf. Ib., pp. 307-318.

(一〇) Cf. Ib., pp. 319-329. Cf. Jean-Yves Guichard, «Régionalisme, fédéralisme et minorités nationales en France entre 1919 et 1939» *Le mouvement social*, n° 70, janv.-mars 1970. 拙稿「フランス人民戦線論史序説」法律文化社 一九七七年、特に二〇八頁、参照。 Cf. Roger Martelli, Reflexions sur le stalinisme, CHRM, n° 43, 1990, etc. 一刻も早く、正確な科学的な『フランス共産党史』の出版を望む。

(一一) Cf. Ib., p. 330.

(一二) Cf. Ib., p. 331.

(一三) Cf. Ib., p. 332.

付 記

(一) 主要参考外国文献は、Cf. Staphane Clouet, De la rénovation à l'utopie socialiste: révolution constructive, un groupe d'intellectuels socialistes des années 1930, P. U. de Nancy, 1991, Jean-Paul Brunet, Histoire du socialisme en France (de 1871 à nos jours), PUF, n° 1451, 1989, etc. ㄱㄴㄹ。

(二) 筆者は、CRHMSS, Bulletin n°15, 1992 (パリ、九月二四日発信) を寄贈されている。フランス人民戦線の時期は、一九九一年中で一二種(博士論文三種、修士号論文九種)である(研究テーマは、圧倒的に戦後のテーマである)。合計、外国で八四四種、国内で八八四種、合わせて一、七二八種である。(九二一一一一一七現在。)